

平成30年度

事業報告書

 社会福祉法人 御浜町社会福祉協議会

目 次

【法人運営・指定管理】

- 1 組織運営の充実強化
- 2 人事労務管理・個人情報管理・リスクマネジメント対策
- 3 職員の資質向上と確保
- 4 基金・各種積立金と自主財源の確保
- 5 各種関係機関との連携、各種会議への出席
- 6 災害に対する取り組み活動
- 7 地域福祉活動計画の推進
- 8 マイクロバス等の車両貸出
- 9 福祉健康センター指定管理事業

【地域福祉事業】

- 10 ボランティアセンター事業
- 11 学生ボランティア講座
- 12 夏休み手話教室
- 13 しゅみ活動講座事業
- 14 子育て支援事業
- 15 手話学習会の開催事業(手話サークル支援)
- 16 ボランティア情報の提供・啓発事業
- 17 ボランティア協力校事業
- 18 福祉教育推進校事業
- 19 学校からの依頼による福祉体験
- 20 ふれあい配食サービス事業
- 21 ふれあいサロン
- 22 ちびっこランド
- 23 育児用品リユース広場事業
- 24 御浜町ファミリーサポートセンター事業
- 25 わくわく！移動動物園
- 26 みはまっこ体験クラブ
- 27 神木地区におけるたまり場とコミュニティ促進事業
- 28 ささえあいサービス
- 29 福祉映画上映会
- 30 あいあい祭り
- 31 福祉コミュニティ推進事業
- 32 地域福祉活動助成事業
- 33 高齢者見守り活動
- 34 社協・福祉の情報提供関連事業
- 35 御浜町敬老会
- 36 生活支援コーディネーター事業
- 37 健康ランドみはま(介護予防・交流促進事業)
- 38 サロン・たまり場だよ！全員集合！ in みはま(介護予防・交流促進事業)
- 39 認知症カフェ事業(café「1go1笑(いちごいちえ)」)
- 40 総合相談及びニーズ把握事業
- 41 心配ごと相談所開設事業
- 42 日常生活自立支援事業
- 43 法人後見業務及び権利擁護に関する事業
- 44 あんしん訪問相談事業
- 45 フレンドの会
- 46 歳末事業「クリスマス会」
- 47 生活交流会
- 48 高齢者向け情報誌「あくしゅ」発行事業
- 49 声の広報配布事業
- 50 福祉車両貸出事業
- 51 福祉機器貸出事業
- 52 寝たきり者等寝具消毒サービス事業
- 53 在宅介護者に対する支援事業
- 54 育児用品貸出事業
- 55 生活福祉資金
- 56 しあわせ金庫
- 57 生活困窮者自立支援事業・みえ福祉の「わ」創造事業
- 58 見守り・緊急時対応システム
- 59 まちかどチェアエクササイズ(まちかどエクササイズ)
- 60 御浜町民生委員児童委員協議会の運営支援活動
- 61 ボランティア連絡協議会の事務局業務
- 62 御浜町共同募金委員会事務局(赤い羽根共同募金運動及び歳末助け合い募金運動)

【在宅福祉及び関連事業】

- 63 御浜町ケアサポートセンター(居宅介護支援事業・介護予防居宅介護支援事業)
- 64 御浜町ヘルパーステーション(訪問介護事業・介護予防訪問介護事業)
- 65 御浜町デイサービスセンター(通所介護事業・介護予防通所介護事業)
- 66 御浜町訪問入浴サービス(訪問入浴事業・介護予防訪問入浴事業)
- 67 御浜町指定障害者相談支援事業所(特定相談支援事業)
- 68 御浜町ヘルパーステーション(居宅介護・地域生活支援事業)
- 69 知的障がい者日中一時支援事業(にこにこデイサービス)事業(地域生活支援事業)
- 70 福祉有償運送サービス事業

事業名		組織運営の充実強化
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源
事業の概要	目的	役員の社協運営への積極的参画を図ると共に、理事会、評議員会のほか役職員による各種委員会等を開催し、研究・協議を行うことで組織運営の充実強化を目指す。
	目標	役職員が一体となって社協運営(経営)を充実させるという意識の高揚を図り、社協本来の使命と役割を再認識し、計画的な事業実施や体制づくりを行う。
	実施内容	1. 理事会の機能・役割の強化 2. 評議員会の機能役割の強化 3. 各種委員会・会議の運営 4. 組織に関する研修会への参加 5. 社協発展強化計画の策定
事業実績	内容	1. 理事会の開催 第1回(5月31日) 第2回(9月25日) 第3回(12月19日) 第4回(3月25日) 2. 評議員会の開催 第1回(6月19日) 第2回(12月21日) 第3回(3月28日) 3. 各種委員会・会議の開催 ○総務委員会の開催(1回) ○評議員選任・解任委員会(1回) ○正副主任会議の開催(毎月1回) ○福祉サービス向上委員会の開催(毎月1回) 4. 組織に関する研修会への参加 ○社会福祉法人役員及び幹部職員研修会 ○労務管理講習会 ○社会福祉法人の経営に関する研修会 ○職員確保に関する研修会 ○人材確保に関する研修会への参加 ○その他、法人運営に関する研修会への参加 5. 社協発展強化計画の策定 理事会、職員会議での意見を基にプロジェクトチームを中心に2019年度から5年間の社協発展強化計画を策定。
	総評	理事会・評議員会は一定の回数を開催することができ、社協の現状を理解していたが、理事会においては活発的な議論ができた。 社協発展強化計画を策定を通じて、職員会議やプロジェクトチーム会議を設け、社協の現状や制度の説明を行ったことで、職員の理解にもつながった。
	課題	執行機関である理事会がより機能するためには、理事及び監事には、より社会福祉の制度や方向性を理解していただく必要があると考える。また、職員関係会議においては、効果的で効率的な各種会議運営が課題となっている。
	その他(所感等)	社協発展強化計画が策定できたことで、これからの社協の方向性がある程度具体的となった。 現在の社協の使命や経営状況から、今まで以上に役職員それぞれの役割を明確にし、機能を果たせる組織体制の構築が必要になっていると考える。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		理事・監事を対象とした研修を企画する。また、社協発展強化計画が適正に推進できるように、役職や職員身分に応じた役割、組織体制を検討すると共に、各種会議の整理も行っていく。
特記事項		
担当者		芝

事業名		人事労務管理・個人情報管理・リスクマネジメント対策
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源
事業の概要	目的	職員の人事労務管理(労働環境・健康等)の充実、個人情報の管理の徹底、各種リスクマネジメントへの対応を行う。
	目標	目的達成のための業務を遂行し、社協の健全な経営を図っていく。
	実施内容	1. 三重県・県社協・紀南地域等で開催する労務又は雇用に関する各種研修会への参加 2. 個人情報の管理への取組 3. 職員の健康診断等の実施と安全な労働環境の整備 4. リスクマネジメントへの取組
事業実績	内容	1. 人事労務管理関係 ①社会福祉法人役員及び幹部職員研修会へ参加 ②雇用管理責任者講習会へ参加 ③労務管理講習会へ参加 ほか 2. 個人情報管理関係 ①情報保護マニュアルの遵守 ②個人名簿等のデータベースを集中化し、クラウドサーバーを活用して管理 ③各利用者の個人データ・ケアプラン等のファイルを書棚で施錠管理 ④個人情報に関する考え方(プライバシーポリシー)の規程をHP上で公表 ⑤マイナンバーをクラウドサーバー(専用ソフト)で管理 ほか 3. 健康管理関係 ①全職員対象とした健康診断とメンタルヘルスチェックを実施 ②労働衛生法にもとづき産業医を委嘱 ③衛生委員会の開催(毎月1回) ほか 4. リスクマネジメント関係 ①町福祉健康センターで職員と来場者を対象とした避難訓練を実施(年2回) ②事業継続計画の推進 ③福祉サービス向上委員会でリスクマネジメントとヒヤリハットを協議(毎月1回) ④第三者委員を設置(2名) ⑤各係ごとに苦情解決担当者、苦情解決責任者を設置 ⑥交通安全管理者講習会へ出席 ⑦防火管理者講習会へ出席 ⑧安全衛生に関する研修会の開催
	総評	人事労務管理について関係法令が次々と改正されており、現状も勘案しながら対応することができた。その他、個人情報管理・リスクマネジメント対策も継続して行った。
	課題	リスクマネジメントや個人情報保護について、研修後は意識が高まるものの時間の経過につれ、意識の低下が見受けられるケースがある。
	その他(所感等)	今まで以上に、健全な労務管理が求められるようになってきている。各種法令について、正しい理解を行い法令を遵守した経営に取り組む。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		情報管理マニュアルについて、職員が確実に遂行できるよう継続して職員への周知徹底を図る必要があることから、次年度も引き続き研修会を行う。 リスクマネジメントマニュアルについて、現在の考え方に沿ったものとなるよう、見直しを行い職員への周知を行う。
特記事項		
担当者		芝

事業名		職員の資質向上と確保
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源
事業の概要	目的	社会福祉協議会の基本理念と職員の行動指針に添える人材の確保
	目標	社会福祉協議会の基本理念と職員の行動指針等に基づき、社協職員として自覚と専門性を習得させる。また、業務に応じた職員の確保を行う。
	実施内容	三重県・県社協・紀南地域等で開催する各種研修会等に積極的に参加、また部内会議・研修等により豊かな人間性、倫理観、福祉に携わる社協職員としての質の向上を図る。 また、専門知識を高めるための資格取得に対して、取得時の報奨金や取得に関する研修会への派遣や費用負担を行う。
事業実績	内容	1. 社協の職員行動指針の徹底を図る。(朝礼時に唱和) ①福祉専門職としての誇りと自覚を持ち、知識と技術に裏付けられた質の高いサービスを提供する。 ②常に住民や関係機関との協働を意識した行動をするとともに、地域においても自ら率先して福祉社会の発展に努める。 ③お客様の尊厳を保持するとともに、相談援助に際しては高い倫理意識を持って行動する。 ④常に地域福祉の充実という観点で福祉ニーズを意識し、柔軟かつ創造性に富んだサービスの開拓に努める。 ⑤職員相互が尊重し合い協調と連携のとれた業務を遂行するため、組織の一員として規律を遵守した行動をとる。 2. 各種研修会により質の向上を図る。 ①介護サービス及び障害福祉サービス事業所集団指導へ参加 ②介護サービス事業所実地指導の実施 ③生涯研修会への参加 ④三重県及び紀南介護保険広域連合主催各種研修会へ参加 ⑤介護の技術や知識向上を目的とした研修会への参加 ⑥法人や地域福祉サービスの知識向上を目的とした研修会への参加 ⑦社協内の定期研修会や伝達研修会等の実施 ⑧その他各種連絡会議、ネットワーク会議へ参加 ほか 3. H30年度の資格取得状況 ○認知症ケア専門士 1名
	総評	専門性を高めるための様々な研修に対して職員の派遣を行った。また、社協内においても毎月定期研修を実施し、職員の資質向上を図ってきた。通所介護事業の非常勤臨時職員については、必要に応じて雇用し研修の機会を設けた。
	課題	介護支援専門員試験の新規合格者はなし。非常勤臨時職員として、看護師や訪問介護職員の確保が難しくなっている。
	その他(所感等)	社協発展強化計画の策定にあたり、正規職員を対象に社会福祉の制度や社協の現状・課題の説明を行い共有を図った。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		社協全体の事業を安定させるためにも職員の資格取得に関してのなんらかの支援を行っていく。看護師や訪問介護員の確保については、60歳を超えた方等、幅広い人材の活用と併せて検討していく。
特記事項		
担当者		芝

事業名		基金・各種積立金と自主財源の確保
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源
事業の概要	目的	安定的な社協の運営を行っていくために、社会福祉基金及び各種積立金額の一定額を保つと共に、自主財源の確保を図っていく。
	目標	1. 介護保険事業・障害者事業の収益を積立て、安定した経営基盤を整備する。 2. 民間の寄附等により地域福祉活動の充実を図る。 3. 社会福祉協議会会員の募集と会費の徴収により民間財源の拡充を図る。
	実施内容	1. 社会福祉基金 2. 社協基盤整備積立金 3. 人件費積立金 4. 備品等購入積立金 5. 社協会費 6. 共同募金等の財源
事業実績	内容	1. 社会福祉基金 昭和60年の法人化を機会に、それまで行政が受けた寄附をもとに多くの住民から寄せられた善意を積み立てている。目的としては、当初、利子をもって活動財源に充てる計画。現在は公共性が高い高額な福祉機器や大きな事業のために活用することも含めている。 (H31年3月末現在、47,019,680円) 2. 社協基盤整備積立金 近年、社協に寄せられる寄附金の使途が、福祉事業や公共性の高いサービスに活用してほしいとの寄附者の意向を受けて設置。 (H31年3月末現在、5,390,675円) 3. 人件費積立金 H12年度からの介護保険サービス等の収益を積み立てたもので、人件費の補填等を目的に設置。 (H31年3月末現在、69,948,000円) 4. 備品等購入積立金 H12年度からの介護保険サービス等の収益を積み立てたもので、介護保険サービス等の備品購入を目的として設置。 (H31年3月末現在、20,578,976円) 5. 社協会費 H30年度会費についても、H31年3月に社協役職員により町内全地区で会員募集と会費徴収を実施。(会員数…一般312件、賛助会員481件 会費総額…321,000円) 6. 共同募金等の財源 全国的な民間福祉の財源として、赤い羽根・共同募金があり、社協で事務局を受け持ち募金活動を実施。募金額により社協への配分金が決定される。(募金実績額は、「御浜町共同募金委員会」の中で報告)
	総評	社協会員については、育児用品の貸出サービス利用やマイクロバス貸出を通じて加入の促進を図ることができた。積立金は、取崩額以上の積み立てを行えた。
	課題	寄附金については減少傾向にある。
	その他(所感等)	2事業について、県社協の助成を受けた。今後も、事業展開に合わせて様々な助成を検討していく。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		寄附金等の自主財源の使途について、より明確に住民に周知し理解を得ていく必要がある。
特記事項		
担当者		芝

事業名		各種関係機関との連携、各種会議への出席
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源
事業の概要	目的	社協の役割として、幅広い関係機関との連携を図り、協働による事業推進は必要不可欠である。各種連絡会議・研修会等を通じて効率的な運営と幅広い事業展開を目指す。
	目標	社協としての経営に必要な情報・ノウハウを得て、それを具体的に事業に反映させる。地域福祉の推進にあたり幅広い関係機関や専門職と協働した事業展開や相談対応を図る。
	実施内容	○三重県・県社協・紀南地域等で開催する各種連絡会議等に積極的に参加し、情報交換等により運営の充実を図る。 ○幅広い関係機関や専門職と相談対応を図る。
事業実績	内容	1. 紀南地域における各種会議等 ①熊野市・紀宝町・御浜町社会福祉協議会連絡会議への参加 ②東紀州地域社会福祉協議会事務局長会議への参加 2. 三重県社会福祉協議会等主催による会議等 ①三重県各市町社協事務局長会議に参加 ②三重県地域福祉活動推進協議会に参加 ③三重県社会福祉大会に出席 ④三重県共同募金会に評議員として参加 ほか 3. 関係機関との会議等 ①御浜町民生委員児童委員協議会総会に出席 ②紀南地域生活支援体制整備事業協議体に参加 ③地域包括ケア会議に参加 ④紀南高齢者権利擁護支援体制連絡会に参加 ⑤紀南視覚障害者福祉会総会に出席 ⑥紀南自立支援協議会に参加 ⑦専門職の協働が必要な各種相談等における会議の開催 ほか
	総評	会議ごとに目的は違うが、個別課題から地域課題にまで幅広い福祉課題に対しての共有と協議、対応につなげることができた。また、今後の社協運営に必要な情報を得る事ができた。
	課題	会議によっては、会議内容や進め方を検討する方がよいものもあると感じる。
	その他(所感等)	福祉関係だけではなく、生協等他分野との連携についても議論することができた。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		当会主催や共催及びそれに近い会議においては、介護内容や進め方をより効率的で効果的な内容への変更を図る。
特記事項		
担当者		芝

事業名		地域福祉活動計画の推進
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業の概要	目的	社会福祉協議会が地域福祉の健全な発展を図ることを目的に、H29年度からH33(R3)年度までの中期計画として「第3次 地域福祉活動計画」を推進する。
	目標	計画の進捗管理と評価を行い推進していく。
	実施内容	○地域座談会の開催 ○地域福祉（活動）計画推進委員会の立ち上げ ○計画の活動指標（ものさし）作り
事業実績	内容	◆地域座談会の開催 計画の進捗状況の報告、地域における課題やニーズ、状況把握等を目的に区長や区の役員、民生委員、ボランティアに呼びかけを行い5地区で開催。 ◎開催日程 尾呂志地区（9月6日） 市木地区（9月5日） 神木地区（8月30日） 志原地区（9月6日） 阿田和地区（9月5日） ◆活動指標作りに向けた検討会の開催 ◎開催日程 7月4日 場 所 御浜町役場 参加者 役場健康福祉課福祉係1名、地域福祉係2名
	総評	地域座談会については、前年に引き続き開催したことにより意味を理解してくれる方が増え、前向きな意見が多く、新たな発見が多くあったと共に、地域に計画をさらに理解していただくきっかけにもなったと感じる。また、地区の役員等と顔を合わすきっかけにもなり、地域福祉活動につながった。
	課題	地域座談会の、計画に基づく現在の状況説明では、初めて参加してくれた区の役員からは指標ではないため、実感としてはわかりづらいという意見もあり、説明資料の工夫が必要と思われる。また、わかりやすい活動指標づくりが必要となる。
	その他（所感等）	健康福祉課との勉強会等を重ねることで計画の共有ができた。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		進捗管理の基準となる指標に関して検討にとどまっているため、評価がしづらい状況である。次年度は指標となるものを示し、進捗管理と評価できる体制を構築していく。
特記事項		
担当者		喜田

事業名		マイクロバス等の車輛貸出
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
事業の概要	目的	福祉団体等の事業に対して、マイクロバス等の車輛貸出しを行うことにより、地域福祉の推進やボランティア・市民活動への支援及び社協活動の周知に繋がることを目的とする。
	目標	多くの団体に利用いただき、団体の活動活発化と市民活動団体としてボランティアセンターへの登録促進を図る。また、社協活動の周知と併せて、社協一般会員の増加を目指す。
	実施内容	次の事業を行う団体にマイクロバスの貸出を行う。(一部の団体はワンボックス車可) <input checked="" type="checkbox"/> 利用可能団体 <ul style="list-style-type: none"> ・御浜町内の福祉団体 ・公共性の高いと思われる団体等 ・ボランティア・市民活動に該当すると思われる団体で、御浜町ボランティアセンターへ登録している団体 <input checked="" type="checkbox"/> 利用条件 利用する団体等もしくは、その団体等を代表する者が、法人会員又は一般会員であること <input checked="" type="checkbox"/> 利用目的 <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の向上につながると思われる事業 ・青少年の健全育成に結びつくと思われる事業 ・住民や会員等の学習、研修を目的にしている事業 他
	利用料	無料(燃料については原則満タンで貸出し、満タンで返却) ※有料駐車場、有料高速料金等、運行に実費が伴う費用については自己負担
事業実績	内容	◆貸出実績 39件 (マイクロバス24件・ワゴン車15件) ◆貸出団体 12団体 <ul style="list-style-type: none"> ・松濤園 ・御浜町母子寡婦福祉会 ・御浜町 ・御浜町教育委員会 ・南紀さんさんワーク ・グランマの会 ・御浜町民生委員児童委員協議会 ・御浜町身体障害者福祉会 ・思志会 ・御浜中学校 ・AMドリームス ・御浜町遺族会
	総評	御浜町や福祉団体、スポーツ少年団、青年団、ボランティアグループなど幅広く利用いただき、各団体等の活動活発化や地域福祉の向上、青少年育成につなげることができた。これまであまり関わる機会がなかった団体等とも関わるきっかけとなり、社協活動の周知にもつながった。
	課題	予約日程表のチェックミスにより二つの団体を同日に受け付け対応したケースや報告の無い損傷が車輛にあったケースがあり、今後貸し出し団体が増えていくと思われる中で日頃の確実なチェック等が必要である。また、貸出しをきっかけに関わることでできた団体とのつながり作り等の仕掛けも検討していく必要がある。
	その他(所感等)	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		より多くの団体、住民に利用いただき、地域福祉向上や青少年育成、社協活動の周知につなげる為、広報等を活用しPR活動を展開していく。また、安全に貸出しするため日頃の車輛管理を行うとともに貸出時、返却時に傷等の有無の確認を行い、継続的に事業が行えるよう留意する。
特記事項		
担当者		中尾

事業名		福祉健康センター指定管理事業
財源元		<input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業の概要	目的	御浜町福祉健康センター条例に定められた業務を実施することを基本として、適切に施設の管理運営業務を実施し、もって住民福祉の一層の増進を図る。
	目標	適切な指定管理業務を行う。
	実施内容	①施設の適切な維持及び管理 ②緊急事態発生時の対応策・その他安全対策 ③点検業務等の第三者委託
事業実績	内容	<p>◆施設の適切な維持及び管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常的な保守点検 ○修繕・交換の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・蛍光器具の修理 ・車庫シャッターの修理 ・車庫壁の補修工事 ・浄化槽放流ポンプの交換 ・エアコンの修理 ・ガラスの修理 等 ・蛍光灯の交換 ・網戸の張り替え ・誘導灯蓄電池・感知器の交換 ・換気扇の取り換え ・水道所口等の修理 <p>◆緊急事態発生時の対応策・その他安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練の実施・・・6月13日、11月21日 <p>◆業務の一部委託について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第三者への業務の委託契約 <ul style="list-style-type: none"> ・電気設備保安管理業務 ・フロム簡易点検業務 ・空調設備保守点検業務 ・地下タンク気密点検業務 ・自動ドア保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・日常清掃業務 ・ボイラー保守点検業務 ・ヘルストロン保守点検業務 ・浄化槽保守点検業務
	総評	修繕等適切な管理を行っていると考えます。
	課題	年数の経過により建物や備品の修繕が必要な箇所が増えてきている。また、大規模修繕を必要とする箇所も増えてきている。貸館としての利用は少ない。
	その他(所感等)	
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		今後も修繕箇所を確認し、修繕費等も含めて行政に相談しながら対応していく。貸館についても、団体等のニーズを確認しながら検討していく。
特記事項		
担当者		芝

事業名		学生ボランティア講座
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業の概要	目的	町内の小学生を対象に、福祉の正しい理解とボランティア活動の意義を見つけたすことを目的とする。
	目標	将来、福祉やボランティア活動に興味を持っていただくためのきっかけをつくる。
	実施内容	ボランティアに関する基本を伝え、様々な体験を通し「相手のことを考える」ことを学ぶ。
	利用料	参加費 100円
事業実績	内容	<p>◎日時 3月26日（火） 9時30分～15時</p> <p>◎場所 紀南ひかり園（熊野市有馬町）</p> <p>◎内容 施設説明、見学 午前：花植え交流（園芸グループ10名、児童デイ8名） ・協力しながらプランターに花の苗を植える。 午後：レクリエーション交流 ・障がい者とゲーム等で交流。</p> <p>◎対象 町内の小学生 1年～6年（卒業生も含む）</p> <p>◎参加人数 18名（男子 6名 女子 12名） 5年生…4名 4年生…3名 3年生…6名 2年生…2名 1年生…3名</p>
	総評	前年度に続き参加してくれた児童もおり、定員に達するのが早かった。今回は障がいのある同年代の子どもと一緒に作業に取り組めたため、相手を思い、できない部分を自然と手伝っている姿がみられた。
	課題	高学年と低学年と同じプログラムで行うと、体力・理解力に差があるため低学年は途中で集中力がなくなり遊んでしまった。説明がどちらにも中途半端になってしまうため別々に講座を設ける方がより理解してもらえるのかも含め内容を検討する。
	その他（所感等）	「花植え」を前面に出した募集であったが、意外にも男子の参加も多かった。
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		講座を通じてできた施設と子どもとの交流を継続的に行っていく方法を検討。また、高学年対象の講座も検討していく。
特記事項		
担当者		長田

事業名		夏休み手話教室
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業の概要	目的	夏休みを利用し楽しみながら手話を覚えることで、聴覚障がい者の生活を理解し、聴覚障がい者の方々と交流していただくことを目的とする。
	目標	聴覚障がい者への接し方や、コミュニケーションの技法である手話を知っていただく。手話サークルの活動促進につなげる。
	実施内容	子どもとその保護者や祖父母、興味のある方々を対象に、手話とはどういうものかを学び、指文字や日常よく使われる単語で人の感情などを中心に勉強する。楽しみながら自然と手話が身についていくようなプログラムで実施。
	利用料	無料
事業実績	内容	前年度に引き続き、三重県聴覚障害者協会の三重県手話言語条例に於ける補助事業に申請し県の事業として開催した。 ◎日 時 8月8日(水)、9日(木)の2日間 13時30分～15時 ◎場 所 阿田和公民館 ◎講 師 手話サークル「オレンジ」 山本容子氏(ろうあ者) 山本恭子氏(手話通訳者) ◎参加者 2日間 延べ26名
	総評	手話にふれたことがきっかけで興味を持ち、教室に参加してくれた子ども達もいた。子ども達には夏休みの活動として定着してきている。教室を一緒に楽しみながら学ぶことで、手話に興味を持ってもらえた様子である。
	課題	興味・関心を持った子どもが継続的に学ぶことができるようにしていく。平日の開催のため保護者の参加は難しいようであるが、大人にも手話に興味・関心を持っていただき、障がいや福祉について知っていただく機会になるようにする。
	その他(所感等)	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		手話を学ぶ場として「手話教室」とし、子どもに限らず大人方も含めた募集とするため、開催日等も検討していく。
特記事項		
担当者		長田

事業名		しゅみ活動講座事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業の概要	目的	新しい技術や趣味を身につけていただくことで「担い手」とし、趣味の「たまり場」や、ボランティア・市民活動への「つながり」作りになることを目的とする。
	目標	多くの方に趣味や技術を身につけていただき、ふれあいサロンやボランティア・たまり場活動へつなげていく。
	実施内容	新しい技術や趣味を身につけていただき、様々な活動へのきっかけとなる講座を開催する。
	利用料	◎おまつりマイスター 300円 ◎おまつりマイスター フォローアップ講座 無料 ◎スクラップブックング 無料
事業実績	内容	<p>【おまつりマイスター】</p> <p>◎日時 8月8日（水）10時～11時30分 ◎場所 町福祉健康センター ◎参加人数 12名 ◎内容 「かき氷」「わたがし」「ワイヤークラフト」（工作）などを上手く作るコツを取得する。</p> <p>【おまつりマイスターフォローアップ講座】</p> <p>◎日時 11月17日（土）10時～12時 ◎場所 町福祉健康センター ◎参加人数 13名 ◎内容 おまつりマイスター講座のフォローアップとして開催。「わたがし」「バルーンアート」の技術を習得する。</p> <p>【スクラップブックング】</p> <p>◎日時 12月19日（水）13時30分～15時 ◎場所 町福祉健康センター ◎参加人数 7名 ◎内容 マスキングテープやシール、色画用紙などを用いて、写真を自由に飾り付ける。</p>
	総評	地域の祭りなどをイメージし、習得した技術を地域で取り組むイベント等に自らの意志で楽しみながら活用していただけるよう取り組んだ。活用する場をコーディネーターすることで、取得した技術を活かせることができた。
	課題	講座を行う際に、参加者の次の展開を意識する。
	その他（所感等）	
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		継続して披露できる場の確保など、講座を行う際に単発ではなく次の展開も意識し、新たなボランティアのグループ化等も視野にいたれた取り組みを検討する。広く募集する講座もあるが、子育て世代や男性、女性などターゲットを絞っての講座の開催も検討が必要である。
特記事項		
担当者		長田

事業名		子育て支援事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業概要	目的	核家族化の進展、地域のつながりの希薄化など課題がある中で、安心して子育てができるよう、地域の子育て支援の担い手となる人材の養成を図り、様々な子育て支援事業での活動につなげていくことを目的に行う。
	目標	ファミリーサポートセンター事業のサポート会員同士の交流を図るとともに、H30年度の子育て支援室等での活動を振り返り、意見交換、情報共有を行うことで、来年度の活動につなげる。
	実施内容	交流会、活動の振り返りや意見交換
	利用料	—
事業実績	内容	◎日時 3月12日 10時～11時30分 ◎場所 旧喫茶若松 ◎内容 サポート会員交流会 ◎参加者 サポート会員7名
	総評	旧喫茶若松で開催したことにより、リラックスした雰囲気でき自然と交流ができ、活動していく中で感じたことを共有できた。また、子育て支援室等でのサポート会員の活動がファミサポの利用につながっていることや、サポート会員がいることで安心してイベントに参加できている保護者がいることを伝える機会になり、活動の重要性を改めて感じていただけたのではないかと。
	課題	活動の中で些細なことも多いが悩んだり考えているため、定期的に意見交換や情報共有できる機会を設けていく必要がある。
	その他(所感等)	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		交流会での感想や意見をもとに研修会の検討や、活動しやすいよう改善を図っていく。
特記事項		
担当者		腰當、長田

事業名		手話学習会の開催事業(手話サークル支援)
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源()
事業の概要	目的	年間を通して手話学習会を開催し、技術の向上を継続的に図ることを目的とする。
	目標	年間を通して学習会を開催する。
	実施内容	手話サークルに依頼し、活動日の中で学習の時間を設置していただくことで定期的に開催する。
	利用料	無料
事業実績	内容	◆手話サークル(会員 28名) ◎日時 毎週火曜日 19時30分～21時 ◎場所 町福祉健康センター
	総評	いろいろ工夫された行事を織り込みながら、聴覚障がいの方と交流が出来ており、生きた手話を年間を通して学んでいる。 サークルに学生の参加がみられるなど年々会員が増え、楽しく学んでいるようである。
	課題	
	その他(所感等)	手話サークルは夜間開催のため、子どもだけでの参加は難いため大人の理解を求める必要がある。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		前年度同様、手話サークルオレンジがより自主的な活動として進め、手話の学習の機会を確保していけるような支援を行う。
特記事項		
担当者		長田

事業名		ボランティア情報の提供・啓発事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業の概要	目的	ボランティア情報提供と啓発を目的に行う。
	目標	一人でも多くの方に読んでいただくため、他情報誌を参考にしたり、記事の内容に工夫を凝らす。
	実施内容	<p>◎毎月の「社協だより」のボランティアコーナーでボランティア募集の掲載</p> <p>◎情報誌「てんとうむし」の発行でボランティア活動報告等を掲載</p> <p>◎社協・ボランティアセンターホームページでボランティア募集、福祉講座・研修の案内などを掲載</p> <p>◎福祉健康センター玄関掲示板にてボランティア募集の掲載</p>
	利用料	—
事業実績	内容	<p>◆ボランティア情報誌「てんとうむし」の発行 ボランティアセンター登録者に発行（年2回）</p> <p>◎内 容 ○ボランティア募集 ○講座、研修会案内及び報告 ○ボランティア活動報告 ○ボランティア活動保険について ほか</p> <p>◆社協だより（ボランティアコーナー）の発行 広報みはまに折り込んで毎月1ページで発行</p> <p>◎内 容 ○ボランティア募集・活動報告 ○講座、研修会案内及び報告 ○助成金のご案内 ほか</p> <p>◆ホームページ</p> <p>◎内 容 ○各団体への情報 ○ボランティアへの依頼と相談 ○ボランティア募集と講座のご案内 ○ボランティアの活動紹介 ○掲示板 ほか</p>
	総 評	ボランティアグループの活動や情報を随時発信することで、他のボランティア活動をしている方からも興味を持っていただくことができた。また、ボランティアの活動や取組を紹介することで、ボランティアのやりがいにつながっている。
	課 題	「社協だより」のボランティアコーナーが、募集の項目が多くなっているため、活動の報告を増やすことで活動を見える形にし、やりがい等につなげていく。
	その他 (所感等)	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		ホームページやSNSを活用し、タイムリーな活動報告等を行い、多くの方に興味を持っていただけるようにしていき、活動者のやりがいにもつなげていく。
特記事項		
担当者		長田

事業名		ボランティア協力校事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業概要	目的	御浜町内の小・中学校および高等学校を対象として、高齢者及び障がい者等との交流や各種福祉活動等により、ノーマライゼーションやボランティアに対する理解を深めると共に、思いあいとやさしさの心を育むことで、児童、生徒を通じて家庭及び地域社会の啓発を図ることを目的とする。
	目標	学校によるボランティアや福祉活動への取り組みの促進。学校とのネットワーク作り。
	実施内容	学校において福祉への理解やボランティア育成を目的にイベントや事業を実施していただくために、町内の小・中学校・高校に対して各3万円の助成を行う。(全8校)
事業実績	内容	<p>◆紀南高等学校</p> <p>○くろしお学園運動会への参加、進行のお手伝い ○国内義援金・海外救援金活動</p> <p>○三重県青少年赤十字高等学校連絡協議会への参加 ○災害の義援金活動</p> <p>○青少年赤十字のつどいの企画・運営 ○献血の仕組み等の勉強</p> <p>○青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングの参加 ○赤十字救急法救命員の受講</p> <p>◆尾呂志学園中学校</p> <p>○地域在住の年配の方々への暑中見舞いおよび年賀状の取り組み</p> <p>○地域住民に対し運動会、文化祭への招待</p> <p>○生徒会挨拶運動 ○学校便りの発行 ○地域ぐるみの卒業式</p> <p>◆阿田和中学校</p> <p>○園芸委員会活動 ○アルミ缶回収 ○3年生校内奉仕作業</p> <p>○住民参加の運動会</p> <p>◆御浜中学校</p> <p>○校区内清掃活動 ○全校救急救命法講習 ○1年生福祉体験学習(4回)</p> <p>○2年職場体験学習 ○3年生人権学習(手話教室)</p> <p>◆尾呂志学園小学校</p> <p>○地域住民に対し運動会、文化祭への招待と交流</p> <p>○もちつき大会での地域交流 ○学校便りの発行による広報活動</p> <p>○花の栽培、育てた鉢植えの花を地域のお店や施設に配布</p> <p>◆阿田和小学校</p> <p>○地域住民に対し運動会への招待 ○園芸・栽培活動 ○親子のふれあい活動</p> <p>○福祉のこころを育てる交流事業</p> <p>◆御浜小学校</p> <p>○高齢者の方々に対し運動会への招待 ○松涛園の方々との交流(2年生)</p> <p>○昔の遊び交流会(1年生)</p> <p>◆神志山小学校</p> <p>○環境美化(花の栽培) ○運動会における地域の高齢者、地域の住民との交流</p>
	総評	全校から申請があり、それぞれの学校が特色を持って地域との交流が図られ、継続的なプログラムで活動が行われている。
	課題	校長や担当職員の異動があるため、福祉に関する意識を持ったうえで、継続的に活動してもらえるよう毎年丁寧に説明を行っていく必要がある。
	その他(所感等)	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取り組み・方向性		各学校で行っている取り組みについて、学生自身が「福祉」に関わったと実感が持てるよう、社協の出張講話との連動して行っていく。校長や担当職員が変わられた学校へは、重点的に訪問し事業に関する理解を深めてもらうと共に関係作りを進めるとともに、福祉に対する理解やボランティア育成に向けたアプローチを行う。また、福祉教育推進事業と関連して進めていく。
特記事項		
担当者		桑原

事業名		福祉教育推進校事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業概要	目的	町内の各学校を対象として、本会が指定するボランティア協力校事業を通じて芽生えた福祉およびボランティアに対する理解をさらに深めるために、定期的な交流事業や各種体験事業等による実践活動を通じ、地域内の支え合いの意識を高めることにより、豊かな人間形成を図ることを目的としている。
	目標	多くの学校に勧めていく。
	実施内容	福祉講演会や地域の高齢者への定期的な訪問活動など社協が定めている事業を実施する場合、1事業につき1万円の助成を行う。（最高5項目5万円）
事業実績	内容	<p>◆神志山小学校</p> <p>○学級ごとの介護などの体験や福祉に関する講座の開催 『人権学習「手話を学ぼう」』</p> <p>実施日 12月5日 実施場所 神志山小学校各教室 参加者 児童 31名 教員 10名</p>
	総評	前年度に引き続き同じ学校から申請があり、学習プログラムに合わせて継続的に福祉学習が取り組みに活用されている。
	課題	福祉学習のきっかけとして多くの学校に利用してもらえるよう具体的な提案も検討していく。
	その他（所感等）	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		4月の学校訪問時に説明を行い、校長や担当職員が変わられた学校へは重点的に訪問し事業に関する理解を深めてもらうと共に関係作りを進める。必要に応じて活用してもらえるように情報提供を行っていく。
特記事項		
担当者		桑原

事業名		学校からの依頼による福祉体験
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業概要	目的	自分たちの地域や建物が、障がい者や子どもたち、高齢者、地域の方にとって、どうすれば住みやすくやさしい町になるのかを気づいていただく。また、体験して終わりではなく、思いあう心を養っていただくことを目的とする。
	目標	車イス体験や福祉講話等を通じ、バリアフリーの心や、みんなが福祉の担い手であり対象であるということについて正しく理解していただく。
	実施内容	学校からの福祉体験の依頼により、福祉講話をはじめ、車イスの使い方や高齢者・障がい者と交流、地域包括支援センターからの認知症講話を行う。
	利用料	無料
事業実績	内容	<p>◆阿田和中学校</p> <p>◎日時 4月23日・25日</p> <p>◎場所 阿田和中学校</p> <p>◎内容 23日 午前：車イス体験、1年生は福祉講話のみ 午後：認知症講座</p> <p>25日 福祉を深めるワーク・まとめ</p> <p>◎参加人数 41名(1、2年生)</p> <p>◆御浜中学校</p> <p>◎日時 ①5月9日 ②5月10日 ③5月11日 ④6月6日・13日</p> <p>◎場所 御浜中学校 校内、体育館及び校舎周辺 町福祉健康センター</p> <p>◎内容 ①福祉講話 ②車イス体験、認知症講話 ③福祉を深めるワーク・まとめ ④障がい者、地域住民とのふれあい</p> <p>◎参加人数 42名(1年生)</p> <p>◆御浜小学校</p> <p>◎日時 2月14日・18日</p> <p>◎場所 御浜小学校 体育館</p> <p>◎内容 14日 福祉講話・車イス体験 18日 グループワーク</p> <p>◎参加人数 42名(4年生)</p>
	総評	前年度より多くの授業時間をいただくことができたため、福祉・認知症講話及び車イス体験に関する振り返りと生徒同士の話し合いを充分に行うことができ、互いの違いや福祉について理解を深めることができた。また、少人数でグループワークをすすめることで、各グループのフォローが必要な場面に対応することができた。
	課題	学年によって感じ方や考え方が異なるため、福祉を身近に感じてもらえるように伝え方を工夫する。
	その他(所感等)	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		福祉について、どのような方法が学生に対して分かりやすく伝わるかなど、伝え方の手法などを考え、工夫していく。また、フォローに入る職員内で、福祉体験のプログラムや学生との関わり方について検討する。
特記事項		
担当者		桑原、長田

事業名		ふれあい配食サービス事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
事業概要	目的	ふれあい型の配食サービスとして、高齢者宅へボランティアの手作りお弁当を配達することで、高齢者とボランティアとがふれあい、安否を気遣いながら地域で支えあって暮らしていける町づくりを目的とする。
	目標	町内全地区に継続実施し、地域でのふれあいを促進する。
	実施内容	地域のボランティアにより毎月1回、ボランティアがメニューを決め地区の公民館で調理し配達する。(7月～9月は休み) 対象者は、調理数も考慮した上で地域のボランティアグループが決定。
	利用料	200円
事業実績	内容	<p>◆上市木地区 ◎実施回数9回 ◎延べ対象者数 54名 ◎延べボランティア数(配達のみ) 18名</p> <p>◆下市木地区 ◎実施回数9回 ◎延べ対象者数 774名 ◎延べボランティア数153名</p> <p>◆志原地区 ◎実施回数9回 ◎延べ対象者数 837名 ◎延べボランティア数156名</p> <p>◆神木地区 ◎実施回数9回 ◎延べ対象者数 378名 ◎延べボランティア数135名</p> <p>◆阿田和地区 ◎実施回数18回(2班に分けて実施) ◎延べ対象者数 1,125名 ◎延べボランティア数165名</p> <p>◆尾呂志地区 ◎実施回数9回 ◎延べ対象者数 351名 ◎延べボランティア数144名</p> <p style="text-align: right;">※対象者数及びボランティア数はH30年4月現在</p>
	総評	月に一度の配食が全地区で継続できており、対象となる方は心待ちにしている。配食サービスを通じ、ボランティアとの交流につながっている。調理ボランティアがいない地区は、地区内にある弁当屋で対応することができた。
	課題	対象者の数が増加していく中、ボランティアの数が年々減少しており、ボランティアの確保と共にどどのように活動を継続していくか検討が必要である。
	その他(所感等)	
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		配食の対象年齢に達しているボランティアも増えてきており次世代の担い手の養成や活動方法について検討していく。
特記事項		
担当者		長田

事業名		ふれあいサロン
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金・参加費）
事業の概要	目的	地区の高齢者を中心に、子どもから大人までが身近な場所に気楽に参加でき、生きがいやふれあいになる場を目的に開催する。
	目標	地域の特性を活かしながら自立した活動となるよう支援する。
	実施内容	次の町内10箇所で毎月1回、昼食を入れて約3時間程度の開催 ○神木 ○上市木 ○下市木 ○引作・柿原 ○萩内団地 ○尾呂志 ○志原 ○山地 ○上地 ○阿田和 内容としては、ゲームや作り物、調理など。 （尾呂志は2回開催。山地・上地・神木は、通常とは別に自主活動にて開催）
	利用料	500円 ※その他、作り物等の材料費は徴収。
事業実績	内容	◆延べ年間参加人数 872名 ◆月別参加人数（参加者数） 4月：80名 5月：75名 6月：71名 7月：70名 8月：57名 9月：69名 10月：70名 11月：66名 12月：80名 1月：74名 2月：81名 3月：79名
	総評	地区により子どもから高齢者が一緒に活動するサロンが一つの形になりつつあり、生きがい作りやふれあいの場所として一定の成果を上げている。 山間部の地域では、エイジハウスの協力のもと買い物等のおでかけをしている地区や移動販売に来てもらっている地区もあり、より生きがいになっていると共に生活支援にもつながっている。
	課題	サロンの重要性が増す中で、参加者の自主性をより高め、内容や回数増加などの充実を図る。
	その他（所感等）	山地と上地と神木地区は自主活動として通常とは別に毎月1回開催している。（上地地区は参加者の減少により12月いっぱいまで自主活動は終了。） 「サロン・たまり場だよ！全員集合！（3月7日）」に参加したことで、参加者の方の刺激となったようで、自分たちのサロンを見直す良い機会にもなり、公民館の外へ出て開催する行動が多数の地区でみられた。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		介護保険の改正によりますますサロンの重要性が増す中で、支援者の育成や自主性をより高め、内容や回数増加などの充実を図る。
特記事項		
担当者		坂、桑原

事業名		ちびっこランド
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業の概要	目的	同じ子育てをする者同士がふれあい、育児の不安や悩み事を相談するなど地域の中で気軽に集える場所作りをすることを目的とする。
	目標	保護者の手作りサロンを目指して開催している志原地区と、ボランティア中心で開催している市木地区のそれぞれの特色を大切にしながら活動していく。
	実施内容	<p>◆ちびっこランドしはら 開催日：毎月第2火曜日 10時～11時30分（1月・8月休み） 場 所：志原公民館 他</p> <p>◆ちびっこランドいちぎ（だるまランド） 開催日：毎月第4火曜日 10時～11時30分（8月休み） 場 所：下市木公民館 他 ※12月は志原と合同</p>
	利用料	一家族 100円（月により200円）
事業実績	内容	<p>◆ちびっこランドしはら（参加者中心でプログラムを実施） 前年度に引き続き音楽に合わせた遊びや創作活動、遠足など季節に応じた内容で行われた。クリスマス会には、前年度同様ちびっこランドいちぎと下市木地区ふれあいサロン「だるまの会」と合同でクリスマス会を行った。 ◎参加家族 延べ90組 ◎ボランティア 延べ20名</p> <p>◆ちびっこランドいちぎ（ボランティア中心でプログラムを実施） 毎回行う体操のほか、創作活動や人形劇、凧あげなど昔懐かしい遊びも取り入れた内容で行われた。下市木地区ふれあいサロン「だるまの会」とあわせて通称「だるまランド」として開催しており、ラジオ体操を一緒に行ったり、各プログラムの中で互いに交流するなどの取組を行った。 ◎参加家族 延べ76組 ◎ボランティア 延べ33名</p>
	総評	それぞれの特色に合わせた活動が行われ、手作りサロンとして定着してきている。毎年、保育所へ入所などにより一時的には参加数が減少するが、新たに参加される家族もあり参加者間での新たな交流が図られていた。
	課題	「いちぎ」は、高齢者と共に同じ場所で一緒に行われるプログラムを考えられていたが、それぞれの活動になっている面もあるため、一体感が増すような形を再度検討していく。
	その他（所感等）	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		次年度においてもそれぞれの特色を活かしながら行っていく。また、「いちぎ」についてはちびっこランドとふれあいサロンで一体感のある活動にするため、プログラムをボランティアメンバーと検討し、参加者間で共有していく。 また、多くの方に参加していただくためSNSやチラシの配布等情報提供を工夫する。
特記事項		
担当者		桑原

事業名		育児用品リユース広場事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業の概要	目的	育児用品を譲り合うことで、子育て家庭をお互いに支え合っていくという意識をもっていただくこと、お母さん同士の交流や育児サークル作りにつなげることを目的とする。また、ファミサポが始まり、サポート会員と親子が交流することで、ファミサポの周知や安心して利用できる環境を作る。
	目標	育児用品を譲るだけでなく、保護者同士やサポート会員との交流を図る。また、子育て家庭のニーズを発掘する。
	実施内容	不要になった育児用品(ベビー・子ども服、おもちゃ、ベビーカーなどの育児用品)を募集し、必要とする方に譲っていただく。また、ファミサポの周知やサポート会員との交流の機会とする。
	利用料	無料
事業実績	内容	<p>[第1回] ○日 時 5月28日 10時～ ○参加者 大人38人、子ども37人 ○サポート会員5名</p> <p>[第2回] ○日 時 9月25日 10時～ ○参加者 大人25人、子ども26人 ○サポート会員6名</p> <p>[第3回] ○日 時 12月17日 10時～ ○参加者 大人43人、子ども41人 ○サポート会員6名</p> <p>[第4回] ○日 時 3月11日～15日 「リユースウィーク」と題し5日間開催し、子育て支援室開所中はいつでも自由に見ていただいた。</p>
	総評	H31年度より、子育て支援室と合同開催となり、参加者も大幅に増えた。リユース広場が保護者同士やサポート会員との情報交換や交流の場となり、ファミサポの依頼につながった。しかし、当初予定していたお茶会の開催は参加人数が多いため難しく、ニーズの発掘やサークル作りにつなげる話し合いの場にできなかった。
	課題	参加人数からリユース広場の後のお茶会の設定は難しいため、新たな場の設定を検討していく。
	その他(所感等)	保護者からは、サポート会員がいることでイベントに参加しやすいとの感想が聞かれた。サポート会員も活動を楽しんでおり、つながり作りのきっかけとなっている。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		保護者はイベントとして楽しみにしてくれており、今後も子育て支援室と合同で定期的開催し、ファミサポの周知やサポート会員との交流を図る。また、お茶会に関しては子育て支援室にこだわらず、必要に応じた場所の設定を行っていく。
特記事項		
担当者		腰當、芝

事業名		わくわく！移動動物園
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業概要	目的	子育て家庭とファミサポサポート会員、ボランティア等が交流することで、地域で子育てを行っていくことの必要性を再認識していただくと共に、つながり作りを目的に開催する。
	目標	イベントを通して、子育て家庭への新しくなった子育て支援室やファミサポの周知に加え、サポート会員やボランティアとの交流を図る。
	実施内容	◎移動動物園(いちご動物園に依頼) ◎その他ゲームコーナー、バルーンアート、綿菓子とお汁粉のふるまい(サポート会員やボランティアが担当) ◎希望があれば、サポート会員による託児
	利用料	参加費:無料 ※動物のエサは100円で販売
事業実績	内容	◎日 時 12月2日(日) 午前の部:10時~12時、午後の部:1時~3時 ◎場 所 子育て支援室、志原保育所園 ◎内 容 移動動物園、バルーンアート、ゲームコーナー、託児など ◎来場者 653名(午前の部:398人、午後の部255人)
	総評	子育て支援室やファミサポの対象となる世代の親子連れが多く来場され、動物のエサやりやふれあいなどを楽しまれていた。また、ゲームコーナー等を担当したサポート会員やボランティアと来場者がイベントを通じて交流している姿がたくさん見られ、ファミサポや子育て支援室について知っていただく機会になった。
	課題	まだまだ、ファミサポや子育て支援室について知らない方もいるため、必要なとき利用につなげられるようまずは知っていただくために、イベントも含めどのような方法がよいか検討していく。
	その他(所感等)	サポート会員やボランティアから楽しく活動できたと感想をいただいた。来場者が多く風船やお汁粉の材料が足りなくなり、途中買い出しに行くことになったが、トラブルなく無事に終了することができた。
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		次年度も、地域の方とのつながり作りのきっかけや親子で楽しめるようなイベント内容を検討する。
特記事項		
担当者		腰當、長田

事業名		みはまっこ体験クラブ
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
事業の概要	目的	町教育委員会やボランティアとの協働で、子どもたちがさまざまな体験活動ができる場と気軽に安心して集える場(たまり場)作りとして開催する。また、新しい人間関係や仲間づくり、地域の様々な世代の方々とのふれあいを通じて、子どもたち自身が地域を理解し、活動する自覚や能力を育成する。
	目標	子どもたちが安心して集える場(たまり場)をつくる。運営ボランティアグループ「みはまっこレンジャー」の支援を行う。
	実施内容	「みはまっこ体験クラブ」を担っていただけるボランティアグループを中心に講座の企画と運営を行う。
	利用料	講座の内容により自己負担(保険代含む)
事業実績	内容	<p>【みはまっこレンジャー企画分】</p> <p>第1回 科学教室 6月2日(土)9時30分～11時45分 ◎場所 御浜町中央公民館 ◎参加者16人</p> <p>第2回 ヒップホップダンス 7月1日(日)10時～11時30分 ◎場所 阿田和公民館 ◎参加者20人</p> <p>第3回 お菓子づくり 8月4日(土)10時～11時30分 ◎場所 尾呂志 熊野古道地域センターさぎりの里 ◎参加者8人</p> <p>第4回 走り方教室 9月9日(土)9時30分～11時 ◎場所 尾呂志学園グラウンド ◎参加者33人</p> <p>第5回 クラフト工作 10月27日(土)9時30分～11時30分 ◎場所 福祉健康センター ◎参加者11人</p> <p>第6回 しめ縄づくり 12月8日(土)10時～11時30分 ◎場所 阿田和公民館 ◎参加者20人</p> <p>第7回 ボルダリング 2月23日(土)10時30分～12時 ◎場所 志原公民館 ◎参加者49人</p>
	総評	開催場所を町内の各地区で行ったことで、多くの小学生に参加していただいた。また、新たな団体とつながることで新たな講座も開催でき、開催講座の種類が少しずつ増え、それに合わせて小学生の体験の場を広げることができた。会場が定着しているものは、自転車で来る小学生もみられるようになっている。低学年は保護者が同伴されることもあり、他の子どもの様子も気に向け、交流が図られていた。
	課題	安心して集え、参加する小学生だけでなく、保護者、講師等、地域の様々な世代の方々がふれあいをもてる場にする。
	その他(所感等)	
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		参加者同士のふれあいをもてる場になるよう、ボランティアグループ内だけでなく、講師とも共有する。 また、夏休み期間は、参加数が見込まれないため避ける。
特記事項		
担当者		長田、桑原

事業名		神木地区におけるたまり場とコミュニティー促進事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（社協基盤整備積立金）
事業の概要	目的	地域の福祉拠点（神木ほのぼの館）を開放し、地域福祉の観点から児童から高齢者が気軽に集まれるスペース（たまり場）を確保すると共に、神木地区のニーズ把握活動や各種会議を開催し、コミュニティーの形成を図ることを目的としている。
	目標	よりみち広場をより多くの方に利用していただく。
	実施内容	「よりみち広場」として、火曜日と木曜日に神木ほのぼの館を一般開放し、誰でも気軽に遊びに来ることができ参加できる場として提供する。 その他、神木や町内の福祉ニーズから必要に応じてほのぼの館を活用する。
	利用料	—
事業実績	内容	<p>◆よりみち広場 毎週火・木曜日の13時から17時まで一般開放 ボランティアグループ「和」に開設を依頼し行っている。 (8月1日～8月27日・12月28日～1月9日の期間は休み) 一日の利用者数 約18名程度</p> <p>◆その他活動 ○神木老人クラブ 福寿会 交通安全研修会等 会場として活用2回 ○ふれあいサロン「ひよこの会」 会場として活用 ○地域座談会会場として活用</p> <p><input type="checkbox"/>和主催の活動・講座など ・パッチワーク教室 2回 ・手芸教室 ・押し絵作り ・クリスマス会 ・ふれあい広場</p>
	総評	ボランティアグループ「和」の活動により、よりみち広場の参加者数、層も安定しており、ふれあい広場では幼児から大人まで幅広い層からの参加がみられた。また、老人クラブの研修会場やふれあいサロンの会場としても活用され、コミュニティーの促進につながっている。 地域座談会では、情報の共有や地域ニーズなど様々な意見が交わされた。
	課題	町内、神木の方のニーズに合わせた利用促進をどのように図るか住民の意見を聞きながら検討していく。
	その他(所感等)	よりみち広場については、参加者は平均3名程増加した。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		次年度においても、各世代を意識した事業展開や介護予防事業、ほのぼの館の活用等、神木や町域のニーズに合わせた各種事業展開を図り、児童から高齢者まで気軽に集まることができるたまり場を目指した地域福祉活動を推進していく。また、併せて広報等活用し周知啓発を行っていく。
特記事項		
担当者		中尾

事業名		ささえあいサービス
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（社協会費、利用料収入）
事業の概要	目的	「困ったときはお互いさま」の気持ちを大切にし、日常生活での困りごとに関してサポートするサービスで、誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進を目的とする。
	目標	会員登録を増やし、各地域内でのサービスの充実を図る。
	実施内容	◆依頼会員の自宅等で次のような生活支援を行うための調整業務 ○簡単な草取り ○買い物 ○ゴミ出し ○通院、外出の付き添い ○墓の掃除 ○見守り ○住居の清掃、整理整頓 ○衣類等の洗濯や補修 など ◆地域福祉の促進を目的としたたまり場等の世話人の調整業務
	利用料	◎年会費300円(すべての会員) ◎利用券300円/30分
事業実績	内容	◆年間延べ利用数 483件（うち生活支援107件 世話人376件） ◆月別利用数 4月：11件 5月：7件 6月：14件 7月：7件 8月：5件 9月：11件 10月：11件 11月：7件 12月：10件 1月：6件 2月：5件 3月：13件 ◆内容別利用数（延べ数） 庭の簡単な草取り 1件 住居の清掃・整理整頓 7件 食料品等の買い物・ゴミ出し 7件 衣類等の洗濯 0件 通院の付き添い 83件 話し相手 4件 墓掃除 4件 官公庁との連絡 0件 食事の支度や手伝い 5件 その他 0件 畑の世話人 209件 カフェの世話人 39件 運転手 128件 ◆研修会「次世代型ホームヘルパー講座」（2月13日、20日、27日の内1日） 参加者：提供会員 ◆会員登録者数（H31年3月31日現在） 依頼会員 22名 提供会員 22名
	総評	ちょっとした困りごとに対応できるようサービス提供時間及び料金設定を見直し、4月から利用券を30分ごと300円として開始した。まだ、思うような新たな活動の広がりをみせていないが、継続的に利用している会員間の関係は深まっている。 畑、カフェの世話人等の部門は一定の件数があがっている。
	課題	病院付き添い以外にもゴミ捨てや電球変えなどのようなちょっとした困りごとに対応できるよう、会員の確保とニーズに合わせたコーディネートが必要である。
	その他（所感等）	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		会員の確保のため、引き続き広報誌やSNS等で募集を行っていく。 また、ちょっとした困りごとの支援として、一定の成果を上げるためサービス提供時間及び利用料金見直しに関する周知を引き続き行っていく。
特記事項		
担当者		桑原

事業名		福祉映画上映会
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業の概要	目的	子どもから大人まで多くの方に、楽しみながら分かりやすく福祉についての関心と障がいやバリアフリーについて理解していただくことを目的に開催する。
	達成目標	多くの方に見に来ていただき、福祉や支え合いについての理解を深めていただく。
	実施内容	福祉映画の上映
	利用料	無料
事業実績	内容	人と人とのつながりをテーマに、映画上映会を開催した。 ◎日 時 7月13日（金）19時～20時16分 ◎場 所 御浜町中央公民館 ◎映画名 パパのお弁当は世界一 ◎入場者数 156名 ◎後 援 御浜町、御浜町ボランティア連絡協議会 御浜町民生委員児童委員協議会
	総 評	子どもから大人まで、多くの方に来場いただき、アンケートから、父子のふれあいや相手を気遣うこと、思いを言葉で伝えることの大切さを感じたとの感想があり、人と人とのつながりやあたたかさを感じていただける、わかりやすい内容で楽しんでいただけた。
	課 題	今後も、子どもからお年寄りまで人と人とのつながりやあたたかさを感じていただける内容にしていく。
	その他 (所感等)	
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		次年度も子どもから大人まで人と人とのつながりの大切さや、それに気づききっかけとなるような内容を検討する。
特記事項		
担当者		腰當、中尾

事業名		あいあい祭り
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金、社協会費）
事業の概要	目的	「あいあい祭り」は、子どもや両親・祖父母といった家庭内や、近所や地区といった地域などの様々な人間関係が希薄化している中で、つながりのきっかけとなり大切さを認識していただくことで、支え合いが広がっていくことを目的に開催する。
	目標	祭りの時だけ楽しむのではなく、帰宅後も家族やご近所同士の会話のきっかけとして、また、体験を継続していただけるようにする。
	実施内容	福祉に関するお祭りとして、メインのテーマを決め、それにそった福祉啓発イベントや家族で楽しめるイベント等を年に1回行う。 テーマや内容等については、一般の方と職員で実行委員会を組織して決定していく。
	利用料	イベントにより一部有料
事業実績	内容	第12回目は、御浜町の「自然」の豊かさに視点を向け、子どもからお年寄りまでみんなに認識・再発見していただけるイベントとして開催した。 ◎日時 8月25日（土） 17時～20時 ◎場所 町福祉健康センター ◎内容 ○テーマ 「もっと光るわたしたちのまち」 ～自然とつながれ おしくらまんじゅう～ ○イベント ・自然とつながれコーナー ・ワイヤークラフト体験コーナー ・万華鏡作り体験コーナー ・和紙作り体験コーナー ・ゲームコーナー ・施設バザー ・木工工作 ・手打ちそば ・金魚・鯉すくい ・駄菓子屋 ・折り紙コーナー ・バルーンアート ・人権・行政相談 ・はやがきイラストコーナー など ◎参加人数 ○来場者 750名 ○ボランティア 135名
	総評	若い親子連れの参加者が多く見られ、子どもからお年寄りまで各体験ブースで共に取り組み会話等のきっかけとなっていた。前年度よりボランティア数も多く、各担当コーナー内でよく関わり合いを持って行っていただけた。また、体験コーナーを多く設けることで子どもからお年寄りまで幅広い世代で関わり合いがみられた。
	課題	コーナーによっては、ボランティアが休憩をとりずらかったため、多くの方がいろんな方と関わり合えるよう休憩の取り方を検討する。
	その他（所感等）	来場者数が想定数を上回ったが、大きなトラブルもなく終えることができた。
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		次年度においても、子どもからお年寄りまでつながりやささえあいが広がり、またその大切さを感じられるよう、反省点を見直し、充実を図っていく。
特記事項		
担当者		桑原

事業名		福祉コミュニティ推進事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業の概要	目的	この事業は、地域内における児童福祉と地域福祉の推進を図る観点から、子どもを含めた地域住民が数多く参加し、地域内の人と人とのつながりを深めると共に世代間交流等の促進を通じて、地域福祉コミュニティの形成を図ることを目的とする。
	目標	助成事業を通じ地域の世代間交流の促進を図る。
	実施内容	児童福祉及び地域福祉の推進を図ること等を目的に大字単位で開催されており、公共性の高い団体が主催する行事やイベントに対して5万円を上限に助成を行う。開催されたイベント等に職員も参加をする。
事業実績	内容	3地区へ助成。 ◆地区別の使途内容 ○尾呂志地区 夕涼み会 ○志原地区 育成会勉強会、夕涼み会 （夕涼み会は、天候不良のため盆踊りとの合同で後日開催された） ○神木地区 神木地区夏祭り
	総評	住民同士の交流や親睦を深めるため、それぞれの地区で工夫し取組み、主催者側も参加者も楽しんで交流が図られており、地域の集いの場に活用されている。
	課題	
	その他（所感等）	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		助成している全地区へ金銭面だけではなく、今後も社協として参加することで、地域とのつながり作りや情報収集の機会とする。
特記事項		
担当者		腰當、中尾

事業名		地域福祉活動助成事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業の概要	目的	この事業は、小地域において、地域の福祉向上を目的に行う奉仕活動や、地域内の人と人とのつながりを深めると共に世代間交流等の促進を通じて、地域福祉コミュニティの形成を図ることを目的とする。
	目標	助成事業を通じ地域の世代間交流の促進を図る。
	実施内容	おおむね自治会、地区自主防災組織単位内において、地域の福祉向上を目的に行う奉仕活動や、地域福祉のまちづくりの契機となるような地区内を対象としたふれあい交流会・運動会や講演会等の活動で、今後の地区内における地域福祉の発展性が認められる事業に対して3万円を上限に助成を行う。
事業実績	内容	2地区へ助成。 ◆地区別の使途内容 ○北畑北自治会・・・運動会 ○上市木（子ども夏祭り実行委員会）・・・子ども夏祭り
	総評	金銭面の支援を行うことで新たな世代間交流の場として活動が広がり、継続的に開催されている。
	課題	小地域単位での交流の場が減ってきている中で、2地区のみの利用と少ないため、多くの地区で活用していただけるよう広報が必要と感じた。
	その他（所感等）	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		他の地区でも活用していただけるよう、具体的な例をあげ、地域で既存で行っている事業に対しても活用していただけるよう周知していく。
特記事項		
担当者		腰當、中尾

事業名		高齢者見守り活動
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業の概要	目的	民生委員児童委員協議会と地域ボランティアとの協働で、虚弱や認知症により近隣との関係が希薄となっている方を定期的に訪問し、地域とのつながり作りを目的に行う。
	目標	民生委員児童委員やボランティアによる月2回の定期的な訪問を行う。
	実施内容	対象となる世帯を民生委員児童委員と地域ボランティアに選定していただき、ふれあい配食サービスなどと合わせて何らかの方法で地域の方が月2回の訪問を行うようにする。
	利用料	—
事業実績	内容	<p>訪問方法は、地域のボランティアや民生委員児童委員の実情に合わせて行っている。</p> <p>◆訪問対象世帯数 143世帯（H31年3月31日現在）</p> <p>◆ボランティア数 22名（H31年3月31日現在）</p> <p>◆会議 ◎地区別会議を実施 ◎日時 7月23日、30日、8月1日</p> <p>◆研修会 ◎日時 3月13日 13時30分～15時30分 ◎内容 映画上映「ホーム・スイートホーム2」</p>
	総評	地域の活動や配食ボランティア活動と連携しながら訪問等行うことにより、各地区に実情にあわせた活動が行われた。また、民生委員児童委員やボランティアとした地域の方が定期的に訪問することにより、対象者への地域の情報等の提供や孤立の防止、つながりづくりとなっている。
	課題	各地区無理のない範囲で活動が行われているが、ボランティア不在の地区もある。民生委員とボランティアの連絡方法等の曖昧になってしまうケースもあるため再度周知していく必要がある。
	その他（所感等）	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		次年度においては、活動の周知・啓発を行い対象者やニーズの発掘に努め、民生委員児童委員、ボランティアと連携を図りながら実施する。また、民生委員児童委員が一斉改選になるため、引継ぎの際には適切に引き継がれるよう留意する。
特記事項		
担当者		中尾

事業名		社協・福祉の情報提供関連事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
事業の概要	目的	住民への福祉啓発や福祉等の情報の提供と共に、社協の活動の理解やPRを目的に行う。
	目標	社協だよりの発行やホームページ等を通じて、より多くの方に啓発やPR、福祉情報等の提供を行う。
	実施内容	<input type="checkbox"/> 社協だよりの毎月発行 <input type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> ツイッター・フェイスブック等ソーシャルネットワーキング(SNS)の活用 <input type="checkbox"/> 防災無線の活用 <input type="checkbox"/> 地方新聞・ケーブルテレビの活用
事業実績	内容	<p>◆社協だより 広報みはまに折り込んで毎月発行。基本6ページ。 (5月・7月号のみ8ページ)</p> <p>◎内 容 <input type="checkbox"/>表紙 <input type="checkbox"/>行事予定カレンダー <input type="checkbox"/>特集 (御浜町のこと もっと知りたい! 伝えたい!・地域福祉活動計画・あいあい祭り等について) <input type="checkbox"/>事業報告 <input type="checkbox"/>福祉制度説明 <input type="checkbox"/>ボランティア関連記事 <input type="checkbox"/>社協事業案内 <input type="checkbox"/>寄付 ほか</p> <p>◎広報委員会 発行にあたって職員6名で広報委員会を設置して、毎月委員会を開催し、記事の調整を行った。また、随時委員会においてより見やすく、多くの方に読んでいただけるよう随時レイアウト等の見直しを行った。</p> <p>◆ホームページの設置 ◎内 容 <input type="checkbox"/>社協紹介 <input type="checkbox"/>事業の募集や案内 <input type="checkbox"/>事業・決算報告 <input type="checkbox"/>社協だよりの掲載 <input type="checkbox"/>リサイクル伝言板 <input type="checkbox"/>ブログ及びSNSによる事業報告 <input type="checkbox"/>ご意見及びご相談に関すること</p>
	総 評	防災無線やSNS等も活用し、幅広い年代の方に向けて様々な事業の案内や情報提供につながっていると考える。また、社協だよりでは、活動写真を多く使用し分かりやすい広報に努め、また御浜町の様々な活動取材し紹介することで、活動者の一つの評価となり、さらなるやりがいにつながっている。
	課 題	社協だよりに関しては、幅広い年代の方に読んでいただけるよう工夫が必要である。
	その他 (所感等)	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		社協だよりについては、さらに見やすくなるよう適宜レイアウトの見直しや記事の充実を図る。さらに、社協をより身近に感じていただけるようSNSの使用も継続し、多くの年代の方に情報提供を行うとともに、地域の方とのつながり作りのきっかけとする。
特記事項		
担当者		腰當

事業名		サロン・たまり場だよ！全員集合！ in みはま(介護予防・交流促進事業)
財源元		<input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
事業概要	目的	住民が住み慣れた地域の中で、生きがいを持って暮らせるための意欲促進、楽しみを持って集える場の確保、介護予防への取り組みを促進することで、高齢者が自立した生活を継続できるような環境作りを目指し、高齢者の社会参加促進を図る。
	目標	イベントを通じた活動評価することで継続意欲を高めていただく、介護予防と生きがいづくり。
	実施内容	サロンやたまり場に参加している方、そのような活動に興味がある方を対象に、御浜町における集いの活動紹介やこれまでの活動に対しての表彰、記念講演会を実施する。
	利用料	集い人！全員集合大会参加費:500円
事業実績	内容	<p>◎日時 3月7日(木) 11:00～14:30</p> <p>◎場所 JA三重南紀 本店 農業団地センター</p> <p>◎参加者数 80名</p> <p>◎内容</p> <p>第1部 式典 (11:00～11:15) 主催者あいさつ 来賓祝辞 (御浜町長)</p> <p>第2部 表彰 (11:15～11:30) つながり・場づくり功労表彰 活動報告 ～御浜町におけるサロン・たまり場活動について 昼食交流会</p> <p>第3部 記念講演 (13:15～14:30) 講演テーマ 地域共生社会をめざして ～御浜町のたからもの～ 講師 皇学館大学 准教授 大井智香子 氏</p>
	総評	<p>広く参加を呼び掛けたことで、活動の中心にある方だけではなく、たまり場の参加者や興味のある方等多く方に参加していただくことができた。講演会では、1部、2部の表彰や活動報告を取り入れた内容でお話をしていただき、本イベント全体の統一感がでた。</p> <p>参加者に普段の活動を自分たち自身で評価し、その活動がどれだけ価値のあるものか知っていただき、またこれから活動をしたいと思っている方に「集うこと、集いの場」の重要性を伝えることができた。</p>
	課題	音響の状態が不安定であり、場所によっては聞こえづらい場面も見られた。施設にトイレが和式しかないため、洋式が必要な方には阿田和公民館を借り送迎を行ったが、利用する方が少なかった。(5回)
	その他(所感等)	<p>サロン、たまり場それぞれに活動のポスターを作成していただき、当日掲示すると共にポスターを冊子にして記念品として参加者に配布した。ポスター・冊子が昼食交流会の際の会話のきっかけとなっていた。</p> <p>参加者の中には、数十年ぶりに同級生に会った方々もおり同窓会にもなった。お座敷小唄の替え歌を全体で歌い、一体感がでたという感想も聞こえてきた。</p>
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		参加者の声から継続的に行っていく必要性を感じた。会場も含めどのような形で、どのくらいの頻度で開催するのか検討は必要である。
特記事項		
担当者		喜田

事業名		認知症カフェ事業(caf�「1go1笑(いちごいちえ)」)
財源元		<input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源()
事業の概要	目的	認知症のある人とその家族、認知症が気になる人を対象に、気軽に相談や情報交換、くつろぎ・憩いの場としての拠点づくりを行う。
	目標	通常の喫茶店を利用する雰囲気づくりを行い、気軽に利用していただく。
	実施内容	<p>◎会員制として会費を頂き、コーヒーやケーキを提供する。</p> <p>◎町内訪問介護事業所の協力を得て専門職を配置。万一の対応や各種相談にも対応する。</p> <p>◎必要に応じて送迎を実施する。</p>
	利用料	200円(ワンドリンク+おつまみ付き) 400円(ワンドリンク+おつまみ付き+ケーキ)
事業実績	内容	<p>◆実績</p> <p>○利用者数 延べ人数 680名 1日平均 13.3名</p> <p>○送迎 要事前予約(5~10名程度利用)</p> <p>○相談 0件</p> <p>◆内容</p> <p>○開催日 毎週火曜日(13:00~15:00)</p> <p>○場所 旧喫茶若松(阿田和4219-10)</p> <p>○協力事業所 (有)あおぞら・NPO法人つどい・(有)であい(株)ひまわり介護サービス</p> <p>◆その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅介護者のつどい会場として活用(別時間) ・紀南地域自立支援協議会精神部会による障がい者交流の会場として活用 ・ファミサポの交流会で活用 ・阿田和地区座談会にて活用
	総評	施設関係からの利用は減少したがリピーターも多い。認知症及び予防での利用者以外にも、地域の方など趣旨を理解した上で利用される方が増加しており、認知症カフェに加えてコミュニティカフェとしての拡がりを見せている。やはり元店舗を利用することで雰囲気も良く利用の拡がりにつながっていると思われる。 その他、カフェ以外に交流会や地区座談会にて活用することにより周知啓発も行った。
	課題	相談等に関して実績が0件。困りごと等に関してはカフェ利用の中での会話の中で行われているため、実績としてあげられていない。相談所機能について、相談の取り扱いも含め検討していく必要がある。
	その他(所感等)	地域住民のニーズから食事等も提供できるよう、改修を行い飲食店としての営業許可を取得した。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		より多くの方に利用していただくため、内容や実施日等について随時活動の見直しを図りつつ展開し、相談等の周知も併せて広報等活用しPRしていく。また、飲食店営業許可がおりたため、メニューや価格設定についても再検討しコミュニティカフェ化を図る。
特記事項		飲食店営業許可を取得
担当者		中尾

事業名		総合相談及びニーズ把握事業
財源元		<input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業の概要	目的	様々な相談対応や調査活動を行うことで、困りごとを抱える方や地域への支援と今後の地域福祉活動の推進を目的に行う。
	目標	社協の相談窓口についての周知を図ると共に、多くの方に相談所をご利用頂く。また、調査を行う。
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆総合相談所の設置 電話、来所、訪問、Eメール等により365日開設 (土・日、年末年始は携帯電話対応) ◆各種事業を通じた相談対応とニーズ把握 ◆調査活動 ◆個人宅やたまり場当への訪問相談
事業実績	内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆総合相談所実績 188件（記録分、心配ごと相談を除く） ◎相談先内訳 住民・サービス利用者 112件 民生委員児童委員 4件 関係機関 68件 ボランティア 5件 ◎相談内容内訳 貸付・生活保護・生活困窮 15件 ボランティア・市民活動 23件 障がい事業関連 9件 高齢者・介護 31件 権利擁護・成年後見 7件 子育て関連 21件 社協サービス 13件 その他 70件 ◆活動調査 ◎地域福祉活動計画の策定にあたって、地域座談会を行い地域の活動や状況、課題把握を実施。
	総評	どのような相談も受け止める相談窓口としたことで今までの相談業務が明確になり、前年度に比べて相談件数が大幅に増加している。行政より「多機関の協働による包括的支援体制構築事業」を受託したことで、関係機関から相談窓口が明確ではない制度の狭間のケースの相談が増えている。(相談内容内訳としては”その他”でカウント)
	課題	相談を受ける職員のスキルと専門家のバックアップ体制の構築、多機関とのネットワーク作りが必要である。
	その他(所感等)	相談内容は多岐にわたってきており複合的な課題を抱えているケースが多くなってきている。生活困窮に関する相談があった場合は継続的に関わることが必要な場合が多い。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		地域福祉活動計画にも相談の充実を一本の柱としており、社協の総合相談機能の充実を基より、関係機関との連携方法のあり方や地域内での相談できる環境づくりについても進めていく。また、担当者だけでなく係全体で対応できるように、相談記録の整理方法を検討し定例的なケース会議を行う。
特記事項		
担当者		喜田

事業名		心配ごと相談所開設事業																											
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()																											
事業の概要	目的	悩みごとや不安ごとを相談する場所を作り、それらの解消をすると共に、出てきたニーズから町内の共通ニーズを分析し、福祉のまちづくりにつなげていくことを目的に実施する。																											
	目標	多くの方に利用していただく。相談内容から福祉ニーズを発掘する。																											
	実施内容	毎月第3水曜日に役場において開設する。相談所は、多くの相談に幅広く応えられるよう、行政相談・人権相談と合同で行う。																											
	利用料	無料																											
事業実績	内容	<p>◆開設日数 12日 (毎月1回)</p> <p>◆相談員 南 州 計 氏</p> <p>◆取扱件数 18件 相談者15名 (男3名 女12名)</p> <p>内容内訳</p> <table border="0"> <tr> <td>○生計 0件</td> <td>○ひきこもり 2件</td> <td>○財産 2件</td> </tr> <tr> <td>○金銭 0件</td> <td>○住宅 0件</td> <td>○土地 1件</td> </tr> <tr> <td>○医療 1件</td> <td>○家族 0件</td> <td>○年金 0件</td> </tr> <tr> <td>○税金 2件</td> <td>○御浜町社協 0件</td> <td>○生活 1件</td> </tr> <tr> <td>○職業・生業 5件</td> <td>○教育・青少年 0件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○成年後見 0件</td> <td>○老人福祉 1件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○障害者・児福祉 0件</td> <td>○母子・父子福祉 1件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○人権・法律 1件</td> <td>○健康・保健・衛生 0件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○その他 3件</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	○生計 0件	○ひきこもり 2件	○財産 2件	○金銭 0件	○住宅 0件	○土地 1件	○医療 1件	○家族 0件	○年金 0件	○税金 2件	○御浜町社協 0件	○生活 1件	○職業・生業 5件	○教育・青少年 0件		○成年後見 0件	○老人福祉 1件		○障害者・児福祉 0件	○母子・父子福祉 1件		○人権・法律 1件	○健康・保健・衛生 0件		○その他 3件		
	○生計 0件	○ひきこもり 2件	○財産 2件																										
	○金銭 0件	○住宅 0件	○土地 1件																										
	○医療 1件	○家族 0件	○年金 0件																										
○税金 2件	○御浜町社協 0件	○生活 1件																											
○職業・生業 5件	○教育・青少年 0件																												
○成年後見 0件	○老人福祉 1件																												
○障害者・児福祉 0件	○母子・父子福祉 1件																												
○人権・法律 1件	○健康・保健・衛生 0件																												
○その他 3件																													
総評	前年度に比べ相談者が増え、一定のニーズがある。専門的な知識が必要である相談や、他機関との連携を求められる相談が多い。																												
課題	幅広い相談に対して他機関へつながるよう連携が必要である。																												
その他(所感等)																													
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D																											
改善への取組み・方向性		次年度においても、昨今の複雑多様化する相談に対してスムーズにアプローチするために、より専門機関と密に連携していく。																											
特記事項																													
担当者		桑原																											

事業名		日常生活自立支援事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業の概要	目的	高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力に不安のある方に対して、書類預かり・日常的な金銭管理・福祉サービスの利用援助を行い、安心した在宅生活を送っていただくことを目的とする。
	目標	家計の計画的なやりくりを支援することで、生活費等の心配なく安心した暮らしができるよう支援する。
	実施内容	この事業は、熊野市社会福祉協議会が南郡・熊野地域の基幹として実施主体となっており、専門員を中心にサービスが提供される。御浜町社協としては、推進員(職員)として日常的な事務や生活支援員(ボランティア性の高いパート職員)との連絡、非常時の訪問などを行う。 利用者1人1人に専門員が支援計画を作成し、その計画に基づいて生活支援員がサービスを提供する。
	利用料	訪問1回につき1,000円(預貯金200万円未満の非課税世帯は無料) 書類預かり年間3,000円(貸金庫代)※1ヶ月250円
事業実績	内容	◆町内利用者 10名(H31年3月31日現在) 内訳…認知症高齢者7名、知的障がい者3名 新規利用者1名 ◆生活支援員 2名 ◆訪問延べ回数 約197件
	総評	通帳や書類の預かりや個別に合わせた家計の相談を行うことで日常的な生活が安定し、必要な福祉サービス等につながっている。
	課題	支援のなかには専門的な知識が求められるケースがあり、弁護士などの専門家や他機関との連携が必要である。また、成年後見制度への移行も視野にいれた支援も求められる。
	その他(所感等)	利用者から支払いに関する困りごと等相談してもらえることが増え、利用者に関わる支援者のなかで役割分担ができるようになったケースが多くみられる。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		次年度から実施主体が御浜町社協に移行(県社協からの受託)するため、初期相談から契約、サービス提供まですべて実施する。今まで以上に、三重県日常生活自立支援センターや他機関との連携を密に行い、ノウハウを蓄積していく。
特記事項		
担当者		桑原

事業名		法人後見業務及び権利擁護に関する事業
財源元		<input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（法人後見受任報酬収入）
事業の概要	目的	高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力に不安がある方や充分でない方の権利を擁護することで、安心した生活を送っていただくことを目的とする。
	目標	権利擁護に関する継続的な研究・協議と法人後見業務の実施。
	実施内容	弁護士や関係機関と地域の権利擁護や成年後見制度による法人後見人の研究・協議を行い、福祉的支援の必要性が高い方に、法人として成年後見を受任する法人後見を行う。 また、権利擁護に関する啓発活動を行う。 その他、一時的に金銭管理が必要な方への通帳管理サービスを行う。
	利用料	通帳管理サービス：500円/1カ月
事業実績	内容	<p>【法人後見への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎法人後見人として受任（1件継続）…11月に本人死亡の為終了 ◎法人後見運営委員会の開催（年3回） 委員…熊野ひまわり基金弁護士、熊野病院P S W、町民児協会長 地域包括支援センター、健康福祉課生保・障がい者担当、社協会長 ◎法人後見に関する担当者会議への出席 ◎成年後見に関する研修会への参加 ◎法人後見に係る津家裁との連絡会への参加 <p>【権利擁護の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎紀南権利擁護支援体制連絡会への参加（年6回） ◎通帳管理サービスの実施（実績なし）
	総評	法人後見業務については継続して1件受任業務を行っていたが、11月に本人死亡の為、終了となった。死後事務については、家庭裁判所や弁護士にアドバイスをいただきながら滞りなく行うことができた。 受任していたケースでは事業所の協力もあり、円滑な支援が行えたが、今後どのようなケースにも対応ができるよう、継続して運営委員会や各種研修会を通じて知見を深め受任に至るケースが出てきた際にはスムーズに対応できるようにしておく。
	課題	成年後見制度は制度的にも未成熟な制度であり、今後も家庭裁判所の考え方や裁量の範囲などが変化していくことも考えられるため、制度や社会全体の流れに流動的に対応していく必要がある。
	その他（所感等）	
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		普段より各種研修会に参加し、社会の流れに流動的に対応していくと共に、各関係機関、専門職と密な情報共有、連携を図っていく。また、必要に応じて法人後見の受任もすすめ、通帳管理サービスにおいても同じく必要に応じて実施する。
特記事項		
担当者		中尾

事業名		あんしん訪問相談事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業の概要	目的	家族若しくは近隣との交流や福祉サービスの利用機会が少ない高齢者、心配される疾病又は身体障がいがある高齢者等を訪問することで、安否確認と会話の中から福祉ニーズの早期発見を行い、高齢者の福祉の増進を図ることを目的とする。
	目標	訪問を通して信頼関係を構築し、訪問時の様子、会話等からニーズをキャッチし、各種機関へつなげていく。
	実施内容	地域とのつながりが希薄となり、孤立する高齢者・障がい者等の世帯で日常生活に不安を抱えている方や緊急時の対応が心配な方を、民生委員及び関係機関と連携し、地域福祉担当職員及び訪問活動員が月1回程度訪問する。 訪問時の状況及び日常会話の中から上がってきた困りごとやニーズに対して各種機関につなげていく。
	利用料	無料
事業実績	内容	◆訪問回数 延べ84回 4月：7件 5月：7件 6月：7件 7月：7件 8月：7件 9月：7件 10月：7件 11月：7件 12月：7件 1月：7件 2月：7件 3月：7件 ◆訪問件数 7件（H31年3月31日現在）
	総評	一人暮らしや衰弱高齢者世帯が自分の課題に気付かず生活していることがあり、そういった方々を定期的に訪問することでアプローチができています。現時点では新たなサービスにつなげるまでに至らないケースが多いが、継続的に訪問することにより信頼関係が構築されている。
	課題	何らかの疾病を抱えていたり、複合する課題を抱えていたり様々であるため、訪問時の本人の様子や家の様子も確認しながら、ニーズを把握するノウハウが必要である。ニーズの顕著化や体調等の変化に応じて関係機関等につなげていく必要がある。
	その他 (所感等)	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		安否確認を含め継続的な訪問をするなかで、支援の糸口を見つけていく。支援を要する際に、迅速に対応できるよう他機関との連携を図る。
特記事項		
担当者		桑原

事業名		フレンドの会
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業概要	目的	普段、外出をすることが比較的困難と思われる知的障がいのある方に、外出の機会や様々な体験をしていただくことで生活範囲の拡大と生活意欲の喚起を図り、社会参加と自立促進につなげていただくことを目的とする。
	目標	様々な体験を通して、参加者で内容を検討していただくことで、自主性の助長を図る。
	実施内容	参加者の方と内容を協議しながら、外出をメイン(1泊旅行含む)に年7回の事業を行う。
	利用料	内容により異なる(100円～300円、1泊旅行10,000円) ※ボランティアも同額
事業実績	内容	<p>◆遠足（4月12日） ◎場所 大内山動物園（大紀町） ◎参加者 7名（ボランティア3名、保護者1名）</p> <p>◆ショッピング（6月14日） ◎場所 イオン新宮 ◎参加者 7名（ボランティア3名、保護者1名）</p> <p>◆カラオケ（8月9日） ◎場所 カラオケ 和（熊野市） ◎参加者 7名（ボランティア2名）</p> <p>◆秋のスポーツ（9月13日） ◎場所 自然の家（熊野市） ◎参加者 6名（ボランティア2名）</p> <p>◆一泊旅行（10月21～22日） ◎場所 大阪市・京都府 ◎参加者 8名（家族1名、ボランティア1名、家族1名） ◎内容 カップヌードルファクトリー、東映太秦映画</p> <p>◆手作り肉まん（2月14日） ◎場所 御浜町福祉健康センター ◎参加者 7名（ボランティア4名）</p> <p>◆お茶会（3月1日） ◎場所 御浜町福祉健康センター ◎参加者 7名（ボランティア3名）</p>
	総評	メンバーの皆さんで活動内容を計画し、準備から行っていくことで達成感に繋がっており、自主性の助長につながっていると考える。また、同じ方が支援ボランティアとして継続的に関わってくれることで、活動の幅が広がっている。
	課題	メンバー個々の自立促進をより図っていくためには、職員、ボランティア共に、個人にあった適切な支援を行っていく必要がある。
	その他(所感等)	
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		現在は、個人ボランティアとして協力をいただいているが、グループ化を図ることで、障がい者支援のスキルを図ると共に、個別支援の方法についても共有することで、より活動の幅を広げメンバーの自主性を高める取り組みにつなげていく。
特記事項		
担当者		坂、長田、中尾

事業名		歳末事業「クリスマス会」
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（歳末助け合い配分金）
事業の概要	目的	交流会を通じて、障がいのある方、子ども、ボランティアの方がその枠を超えて、人と人とのつながりの大切さを感じていただくと共に、また、ひとりひとりが自分のできることを協力しながら行い、交流を深めていくことを目的とする。
	目標	協力しながら会場づくりや調理、ゲームをすることで、一緒に作り上げた達成感を共有し、交流を深める。
	実施内容	障がいのある方と子どものボランティアグループ「プチトマト」が、ボランティアの協力を得て、クリスマス会を開催する。
	利用料	100円
事業実績	内容	◎日時 12月25日（火） 12時～15時 ◎場所 町福祉健康センター 研修室及び栄養指導室 ◎内容 クリスマス会の会場作り、レクリエーション、昼食会 ◎参加人数 39名 ◎参加者 フレンドの会（知的障がい者） 8名 南紀さんさんワークメンバー 11名 プチトマト（子どもボランティアグループ） 11名 ボランティア 9名
	総評	会場の準備をするところから協力して行うことで、自然に交流ができ、作り上げていく喜びを共有できていた。参加者がサンタ役をすることが定着する等、それぞれ役割をもって参加していただけており、レクリエーションにおいてもお互いに協力して行いながら交流が図られていた。
	課題	次の作業が分からず何をしたら良いか戸惑っている場面もあるため、作業内容を順序だてて取り組める工夫を行っていく。
	その他（所感等）	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		作業の分担をもう少し細かく決めておくと、それぞれが役割分担しやすいと思われるため検討していく。また、交流の促進が図れるようにレクリエーションの内容も工夫していく。
特記事項		
担当者		長田

事業名		生活交流会
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業概要	目的	南郡・熊野市の在宅で生活している知的障がい者(児)がレクリエーションや創作的活動を通じて社会参加と交流の機会をつくることで、生活範囲の拡大と保護者の相互理解を広げることを目的とする。
	目標	交流と社会参加の促進を図る。
	実施内容	開催にあたっては、運営委員会を開催し参加者のニーズや前年度の意見を考慮しながら決定している。また、参加者のケース検討なども行い社会参加やエンパワーメントの助長方法も検討する。 ◆生活交流会の開催（年4回） ◆運営委員会の開催（年6回）
	利用料	内容により異なる(100円～500円)
事業実績	内容	参加者の増加や世代等の幅が広がったことから年4回の開催。 ◆対象者数 8名 ◆月別参加人数 5月：7名 7月：7名 10月：6名 2月：8名 ※御浜町からの参加者のみ ◆月々の行事内容 5月：鯉のぼり創作（熊野市保健福祉センター） 7月：バーベキュー（紀宝町福祉センター） 10月：秋の大運動会（御浜町福祉健康センター） 1月：書初め（紀宝町福祉センター）
	総評	会を通して他の地域の方との交流を図り、色々な体験共に行うことで交流が深まっていた。さらに、他の地域の支援ボランティアとの交流もあり活動の幅が広がっている。
	課題	他市町の参加者同士が、より交流できればと考える。
	その他（所感等）	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		他市町の参加者同士の交流を意識した内容と、社会参加につながるような内容を検討していく。
特記事項		
担当者		坂、長田

事業名		高齢者向け情報誌「あくしゅ」発行事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業の概要	目的	高齢者に対する情報提供と、民生委員が配布することにより高齢者の安否確認のきっかけ作りを目的とする。
	目標	ボランティアグループ「あくしゅ」の支援を行い、読み手が届くのを待つ内容を目指し、年4回の発行を行う。
	実施内容	○ボランティアグループあくしゅが制作 ○年4回季刊誌として発行 ○内容は雑学やちょっと役に立つ話などを盛り込む ○配布は民生委員に協力を依頼する
	利用料	無料
事業実績	内容	◆発行 年3回 ◆読者数 162人 ◆ボランティアグループあくしゅ会員数 2名
	総評	季刊誌として年4回の発行の予定であったが、年3回の発行となってしまった。民生委員児童委員の訪問活動時において会話作りのきっかけとしても役立っているため、年4回の発行を目指していく。ボランティアが記事を投稿してくれるようになり、少し変化した内容で発行できた。
	課題	季刊誌として年4回の発行ができるように調整する。ボランティアの記事の投稿と合わせて、読む側が楽しみにしてもらえるような内容にするため、「あくしゅ」を読んだ感想なども聞いて今後の発行に向けての参考にしていく。
	その他(所感等)	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		ボランティアが作りがいがあり、高齢者に向けて読みやすく、また身近な話題の提供もできる情報誌になるようにしていく。
特記事項		
担当者		長田

事業名		声の広報配布事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源（ ）
事業の概要	目的	ボランティアが町広報誌や社協だよりを朗読したCDを配布することで、視覚障がい者や弱視高齢者等の情報入手手段の確保と、ボランティアが視覚障がい者と関わることで障がい者への理解を深め、ふれあいを大切にすることを目的とする。
	目標	毎月、「広報みはま」「社協だより」を朗読、お届けし、視覚障がい者や弱視高齢者等の情報入手手段を確保する。
	実施内容	ボランティアグループ「しおり会」の活動として、毎月、視覚障がい者、弱視高齢者等の方を対象に「広報みはま」と「社協だより」をCDにして自宅まで届ける。
	利用料	無料
事業実績	内容	毎月1回、月末に朗読し希望者へ配達を行った。 ◆利用者数 2名 ◆しおり会会員数 6名
	総評	新しい機材にも慣れ、順調に活動ができている。新規の希望者は、中々増えないが、すでにご利用の方は楽しみに待っていており、町内の情報を知る手段の一つとなっている。CDを聴くことで得た情報が役立っているようである。
	課題	毎月、ボランティアの協力によりお届けすることができているが、朗読してくれるボランティアの体調不良等ボランティアの人数が減ってきている。今後のために、利用者の声を聞き、読み手に伝えることも必要である。
	その他(所感等)	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		朗読ボランティアと利用者の募集を引き続き行っていく。特に一人暮らしの利用者は高齢になり、文字を読むことその他、耳の聞こえも悪くなるため、それにかわる対策を検討していく必要がある。
特記事項		
担当者		長田

事業名		福祉車両貸出事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（社協会費）
事業概要	目的	高齢や障がい、病気、ケガ等により歩行が困難な方で、移動に際し車イスまたはストレッチャーを必要とする方が、通院や公共機関への用務、生活支援につながる外出を行う際の支援を目的とする。
	目標	幅広く周知を行い、移動の際に福祉車両を必要とする多くの方にご利用いただく。
	実施内容	<p>高齢者、負傷者、身体障がい者等の方が下記の用途により外出する際、福祉車両の貸出を行う。</p> <p>○貸出車両：車イス車両（軽）、ストレッチャー車両（軽）</p> <p>○対象者：移動の際に車イス及びストレッチャーが必要な方とその家族</p> <p>○用途：医療機関への通院治療及び入院・福祉施設への入退所・公共機関への用務・地域行事や買い物・墓参り等の生活支援につながる外出・その他本会会長が適当と認めた理由</p> <p>○利用回数：原則週1回 予約必要</p>
	利用料	<p>◎運行範囲が御浜町内であれば無料 （町外を運行する場合は、ガソリンを補充していただく）</p> <p>◎有料道路や駐車場など運行に実費が伴う費用は自己負担</p>
事業実績	内容	<p>◆車イス車両 27件 4月：3件 5月：1件 6月：1件 7月：2件 8月：3件 9月：1件 10月：1件 11月：4件 12月：2件 1月：1件 2月：0件 3月：8件</p> <p>◆ストレッチャー（ベッド）車両 13件 4月：1件 5月：1件 6月：0件 7月：3件 8月：2件 9月：2件 10月：1件 11月：0件 12月：1件 1月：0件 2月：0件 3月：2件</p> <p>◆用途別貸出件数マイクロバス</p> <p>◎医療機関への通院治療及び入退院 28件 ◎福祉施設への入退所 10件 ◎地域行事や買い物など、生活支援による外出 2件 ◎公共機関への用務 0件</p>
	総評	利用対象者や利用目的等の実施要領の見直しを行った。通院治療や入退院、入退所が大半ではあるが、新たに目的に追加された生活支援につながる外出に対する貸出しが2件であった。全体の件数は前年度より増加しており、高齢者や障がい者、ケガ等の理由により通常の車両での外出が困難な方への外出支援のツールとして必要性は高い。
	課題	生活支援での外出に対する貸出しについて周知し、活用していただけるようにする。
	その他（所感等）	通院治療や入退院に継続的に利用いただくことで介護者の負担の軽減につながっている。
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		より多くの方に利用いただくため、広報等を活用しPR活動を行っていく。また、車両の定期点検や燃料の確認を行い、円滑に貸出が行えるよう留意する。その他、新車両になった事により操作が複雑になったため、貸出時には説明、確認を怠らない。
特記事項		
担当者		中尾

事業名		福祉機器貸出事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（利用者自己負担）
事業の概要	目的	在宅の障がい者や高齢者の福祉機器を必要とする方に対して、ベッド等の福祉機器を貸出することで在宅介護支援を目的としている。（他制度優先）
	目標	必要な方に対して貸出を行えるよう、周知と共に関係機関との連携を図る。
	実施内容	○対象者：町内に在住の方で福祉機器が必要な方 （介護保険対象外高齢者、身体障がい者、病気・けが人等） ○貸出用具：介護ベッド、車イス ○利用料金：短期利用者は無料（2週間程度）、それ以上は有料
	利用料	介護ベッド 1,000円/月 車イス 400円/月
事業実績	内容	◆介護ベッド 貸出数6件（長期貸し出し者6件） 4月：0件 5月：2件 6月：1件 7月：1件 8月：1件 9月：1件 10月：0件 11月：0件 12月：0件 1月：0件 2月：0件 3月：0件 ◆車イス 貸出数16件（長期貸し出し者0件） 4月：1件 5月：2件 6月：4件 7月：0件 8月：1件 9月：1件 10月：3件 11月：1件 12月：1件 1月：1件 2月：0件 3月：1件 その他 三重県知事選挙及び三重県議会議員選挙 9台
	総評	ベッド、車イス共に一定のニーズがあり、在宅生活におけるQOL向上につながっている。また、機器の不足もなく、希望に沿って貸出を行うことができた。身体状況により介護保険ではレンタルの対象にならないが、実生活には必要な方やケガをされ一時的に必要な方への必要性は高い。車イスに関しては、施設の入退所や病院への入退院の他、旅行やお墓参りなどの外出の支援にも活用いただけた。
	課題	完全な故障での交換はないが、リモコンのフック等の老朽化もみられる。年数的にも今後老朽化による故障や交換も考えられる。
	その他（所感等）	
総合評価		<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		次年度においても機器の貸出前、返却時に点検・消毒を行い、安心・安全に利用していただけるよう留意する。ベッド、車イス共に老朽化が見られるため、必要に応じて購入も検討する。 HPや広報誌等PRについては今後も継続して行う。
特記事項		
担当者		中尾

事業名		寝たきり者等寝具消毒サービス事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（社協会費）
事業の概要	目的	町内の寝たきり者や寝具の消毒乾燥が必要な要介護高齢者の方の布団及び毛布を洗濯・消毒することで、利用者の環境改善と介護者の負担軽減を目的に行う。
	目標	事業のPR活動を行い、必要な方に利用していただける環境を整える。
	実施内容	◆対象者：寝たきりの方、消毒乾燥が必要な要介護高齢者等 ◆利用回数：年1回 ◆自己負担：1,250円～2,300円（社協負担は4,000円） ※消毒・乾燥は業者に委託。
	利用料	1,250円（掛布団（羽毛布団も可）・毛布） 2,300円（掛布団（羽毛布団も可）・毛布・敷布団）
事業実績	内容	◆利用実績 0件
	総評	生活環境改善の必要な方への支援の一つのツールとして必要とは考えているが、実績がない。
	課題	広報は行っているが利用にはつながらない。また、消毒・乾燥に日数がかかることも利用につながり難い一因と考えられる。※業者からの布団貸出しあり（別料金）
	その他（所感等）	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input checked="" type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		次年度において、ニーズを調査しながら利用しやすい形となるよう広報等活用しながらPRを行っていく。
特記事項		
担当者		中尾

事業名		在宅介護者に対する支援事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（共同募金配分金）
事業の概要	目的	在宅で寝たきりや認知症・障がいの方を介護されている方々が共に集い、意見交換を行うことでより良い介護を目指すと共に、リフレッシュしていただくことを目的とする。
	目標	在宅介護家族へ交流や学習の機会を通じて、お互い介護負担を分かち合うことで精神的な負担軽減を図ると共に、介護者のニーズの発掘を行う。
	実施内容	在宅で寝たきりや認知症・障がいの方を介護されている家族の方々を対象に「在宅介護者のつどい」を開催する。
	利用料	無料 ※内容によって利用料あり。
事業実績	内容	<p>[第1回] ◎日時 6月5日（火） ◎場所 町福祉健康センター ◎内容 交流会、勉強会 ◎参加者 4名</p> <p>[第2回] ◎日時 7月17日（火） ◎場所 町福祉健康センター ◎内容 交流会、勉強会 ◎参加者 4名</p> <p>[第3回] ◎日時 9月18日（火） ◎場所 カシュカシュ（下市木） ◎内容 ランチ交流会 ◎参加者 5名</p> <p>[第4回] ◎日時 12月11日（火） ◎場所 café 1 go 1 笑 ◎内容 交流会 ◎参加者 2名</p> <p>[第5回] ◎日時 3月15日（金） ◎場所 町福祉健康センター ◎内容 交流会、他 ◎参加者 5名</p>
	総評	前年度から回数を1回増やし全5回の開催となった。内容として、交流会に加え、後見制度についての勉強会や緊急通報システム、救急キット等の制度やサービスの説明を毎回のつどいに盛り込んだ。回によって賛否両論あったが、基本的には何かを（知識等）持ち帰りたいという意見が多かったため、継続していくこととなった。様々な意見を交換することで、日頃の介護の様子や今後の介護に関する悩みを共有し、共感しあうことでストレス発散や不安解消につながっている様子。
	課題	参加者数がなかなか増えず、毎回、同じ参加者のため、マンネリ化しているという意見もあったが、今の参加者の集いの場としての機能を大切にしつつ、併せて周知を行っていく必要がある。
	その他（所感等）	場所に関しては、違うところとするより福祉健康センターの方が駐車場も広く良いようである。
	総合評価	<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性	次年度においても現在の形を継続しつつ、場所に関しては福祉健康センターを基本にし、ランチ交流会等に関してはその都度検討していく。内容についてのいろいろな意見もあるが、交流会を基本に勉強会などを加えながら現状を維持していく。また、参加者増に向けて広報等を活用し周知啓発を行っていく。	
特記事項		
担当者	中尾	

事業名		育児用品貸出事業
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（社協会費）
事業の概要	目的	住民相互の支え合い活動と地域福祉活動の観点から、子育て家庭に対して育児用品を貸し出すことにより、子どもの健全な成長を支援するとともに、子育てに係る経済的負担の軽減を図り子育て家庭を支援することを目的に行う。
	目標	必要な方に対して貸出しを行い、若い世代の方とのつながり作りを行う。
	実施内容	<p>◆対象者 町内に居住する社協一般会員世帯で新生児または乳児を養育する保護者、里帰り出産や孫の帰省等により、一時的に3歳以下の子どもに対し育児用品を必要とする世帯（社協一般会員）</p> <p>◆貸出育児用品 <input type="checkbox"/>ベビーシート <input type="checkbox"/>チャイルドシート <input type="checkbox"/>ベビーカー <input type="checkbox"/>ベビーベッド <input type="checkbox"/>ベビーバス <input type="checkbox"/>ベビーバスチェア</p>
	利用料	無料
事業実績	内容	<p>◆利用実績</p> <p>○長期間の貸出し（新生児や乳児を養育する保護者） ベビーシート:1件 チャイルドシート:2件 ベビーカー:2件 ベビーベッド:3件 ベビーバス:1件 ベビーバスチェア:2件</p> <p>○短期間の貸出し（帰省や里帰り等の一時的な貸出し） ベビーシート:1件 チャイルドシート:3件 ベビーカー:3件 ベビーベッド:0件 ベビーバス:1件 ベビーバスチェア:0件</p>
	総評	前年度に比べ、貸出し件数が少しずつ増えてきており、特にチャイルドシートの需要が大きく、帰省や里帰り出産に伴い一時的に必要な方からもご利用いただき喜ばれている。また、この事業を通し妊娠中のお母さんとも会話する機会も増え、育児用品リユースや子育て支援室の周知もできた。若い方にも社協の存在を知っていただくきっかけとなっている。
	課題	利用件数が増えることで利用希望期間が重なることがあり、貸し出しができない状況が起こる。まず、期間の調整等を行い必要に応じて新しい育児用品を購入するなど対応を検討していく。
	その他（所感等）	育児用品は購入費用が高いことから、今後も需要があると考え。利用対象として、社協一般会員としていることから、会員の加入促進にもつながっている。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		社協だよりやSNS、イベント等の様々な場面で、子育て支援事業について周知を行い、必要とされている方に情報が届くよう工夫していく。また、貸し出しが保護者とつながりを作っていく一つの（ツール）きっかけであることも意識していく。
特記事項		
担当者		腰當、桑原

事業名		生活福祉資金
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（事務費として県社協から補助あり）
事業の概要	目的	低所得者、障がい者又は高齢者に対し、資金の貸付と必要な援助指導を行うことにより、その経済的自立及び生活意欲の助長促進ならびに在宅福祉及び社会参加の促進を図り、安定した生活を送っていただくことを目的とする。
	目標	必要世帯に対する新規貸付を通じた相談支援及び滞納者からの償還を図る。
	実施内容	○資金貸し付けに関する相談 ○貸付申請・更新手続き ○貸付者への状況・督促の連絡
	利用料	—
事業実績	内容	◆貸付状況（H31年3月31日現在） ①貸付件数 11件 ②貸付資金名 福祉資金 1件 教育支援資金関係 6件 緊急小口貸付 4件 ◆年度内の償還等の状況 ○滞納 4件 ○償還完了 2件 ◆新規申請状況 0件 ◆相談件数 14件（貸付に関する相談）
	総評	新規貸付は0件であったが、相談をきっかけに潜在的な課題が表面化することもあり、必要に応じて各関係機関、他事業と連携し支援を行った。様々な生活課題を抱える世帯を支援する一つの切り口となった。新規貸付がなかったことについては、みえ福祉の「わ」創造事業の緊急食糧提供事業の活用も一因となっている。 窓口の現金を急に要する相談もあるが、償還が難しく一時しのぎで本人に負債を背負わせる等、生活の支援につながらないと考えられるケースについては、生活保護等や生活困窮事業等の各関係機関と連携を図りながら適切に対応している。
	課題	ケースに応じて適切な利用につながるよう周知啓発を行う必要がある。また、滞納者への対応を個別に検討していく必要がある。
	その他（所感等）	みえ福祉の「わ」創造事業開始時より、緊急小口貸付の必要性は低くなりつつある。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		次年度においても、行政、医療機関等各関係機関や民生委員児童委員などと円滑な連携を図り、支援を展開していく。その際、世帯が抱える複合的な課題等の本質を見逃さないよう留意する。 また、必要な方に情報が届けられるよう広報等活用しPRしていく。
特記事項		
担当者		中尾

事業名		しあわせ金庫
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源 ()
事業概要	目的	町内に居住している低所得者に対し、生計を立てていく上で必要な資金貸し付けを行うことにより、その経済的自立の助長を図り、福祉の増進に寄与することを目的としている。
	目標	必要世帯に対する新規貸付を通じた相談支援及び滞納者からの償還を図る。
	実施内容	町内に3か月以上在住している低所得者(原則として、生活保護法基準の約2倍以内の所得者)で、他からの借入が困難で経済上の困難を招来した者、在住する地域の担当民生委員が貸付が必要と認めた者、その他、社協会長が特に必要と認めた者に対して、1件につき10万円までを限度に貸付を行う。
	利用料	—
事業実績	内容	◆貸付状況 (H31年3月31日現在) ①貸付件数 2件 ②新規貸付 1件 (10万円) ③償還完了者 1件
	総評	みえ福祉の「わ」創造事業開始時より、緊急食糧提供事業や緊急物品支援事業などにより必要性は低くなりつつあるが、H31年度においても生活に困窮し早急に現金が必要なケースに貸付を行った。貸付相談から潜在的な生活課題等が見えてくることもあるため、各関係機関と円滑に連携を図り、必要に応じて情報を共有しながら支援を行必要がある。
	課題	しあわせ金庫の相談につながる方は、様々な理由により生活困窮世帯となっていることが多いため、償還が滞っている方への対応と支援方法については、専門家にも相談しながら進めていく必要がある。
	その他(所感等)	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		みえ福祉の「わ」創造事業等他事業を活用しつつ、必要に応じて対応していく。また、償還が滞り気味の利用者へのアプローチを行うと共に、潜在的な他の課題を見逃さないよう留意しながら支援を行う。
特記事項		
担当者		中尾

事業名		見守り・緊急時対応システム
財源元		<input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源（利用者自己負担）
事業概要	目的	町内の一人暮らし等で見守りを要する高齢者に、日々の安否の確認や緊急時の迅速で適切な対応を可能にするシステムの整備を図ることで、住み慣れた地域での在宅生活を支援し、高齢者の福祉の増進を図ることを目的とする。
	目標	必要な方に対して貸出を行うことで万が一の精神的な不安を軽減し、見守りを行う。
	実施内容	◆申請や取り消し等に関する委託業者との連絡調整 ○対象者：本町に居住する概ね満65歳以上の一人暮らし高齢者等 ○貸出装置：緊急通報装置本体、感知センサー、ペンダント ※設置・撤去等の業務に関しては南紀プロパンガスに委託する。
	費用	初期設置：無料 利用者負担：電話の通信料、電池代、装置の移設、装置を紛失した場合
事業実績	内容	◆貸出数 46名（H31年3月31日現在） 残り機械数21機 ◆年度内の貸出し数 7名 6月：1件 7月：1件 8月：4件 3月：1件 ◆年度内の撤去数 7件 ◆内容変更 8件（協力員の追加、変更）
	総評	生活周期異常の通報が多いが、本人はもちろんであるが、遠方に住む家族にとっては無事に過ごしていることを確認することができ、不安軽減になっている。
	課題	入院や入所などの連絡がなく、生活周期異常が続きそこで初めて不在を知ることが多いため、連絡員の負担を留守にする場合の連絡について再度伝える必要がある。
	その他（所感等）	施設利用しているが体調が良ければ週に一度帰宅される利用者もあり、撤去せずに様子を見ているケースもあり、その場合、家族とも連絡をとるなどし定期的に状況を把握していく。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		生活周期異常において、定期的に利用者の状況把握に努め南紀プロパンガスの担当者とも情報共有を図る。今後も行政や民生委員等と連携し必要な方に設置をすすめていく。
特記事項		
担当者		腰當、中尾

事業名		御浜町民生委員児童委員協議会の運営支援活動
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
事業の概要	目的	厚生労働大臣の委嘱を受けた御浜町の民生委員児童委員・主任児童委員で構成される協議会の運営を支援すると共に、相互に協働・連携を図りながら地域福祉を高める活動を展開する。
	目標	御浜町民生委員児童委員協議会の自主性を尊重しながら、一緒に地域又は町全体の福祉社会の育成に努める。
	実施内容	書記、会計、運営の事務支援
	利用料	—
事業実績	内容	<p>総会、全体会議、研修会に関する連絡調整や書記、会計業務を行う。</p> <p>◆主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町民児協総会の開催 ○全体会議(2回)の開催 ○役員会(1回)の開催 ○地区別民児協会議の開催 ○県民児協主催研修会及び会議への参加(会長研修会・児童福祉委員会 他) ○主任児童委員紀州ブロック会議・研修会への出席 ○社協との協働による要福祉対象者名簿の選定 ○社協との協働による高齢者見守り活動の展開 ○民生委員児童委員の日活動週間「街頭PR活動」・役場庁舎への懸垂幕の掲示 ○三重県社会福祉大会への出席 ○町地域包括支援センター主催研修会への参加 ○歳末助け合い運動街頭募金への協力 ○老人情報誌「あくしゅ」の配布 ○主任児童委員による学校等訪問
	総評	社協が事務局を運営することにより、密に民生委員児童委員協議会と連携を図りやすく、適切なサービスへとつなげており、地域や個人への適切な支援へとつながっている。 各種会議や研修会など円滑に参加することができた。
	課題	施設への入退所や入退院の際には詳細な情報を伝えてほしいと委員からの要望があるが、事務局として把握できないものも多いため情報伝達について検討していく。
	その他(所感等)	事業計画と開催時期がずれてしまった事業があったため、次年度の事業実施、開催にあたっては余裕を持って取り組み、通知等にも十分余裕を持てるよう留意する。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		委員への情報伝達については行政とも連携の上可能な範囲で対応し、委員の方からも情報があがってくるよう体制づくりに努める。 今後も民生委員児童委員協議会と連絡を密にし、より充実した活動が展開できるよう支援を行っていく。
特記事項		
担当者		中尾

事業名		ボランティア連絡協議会の事務局業務
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 自主財源 ()
事業の概要	目的	町内におけるボランティア活動の発展を図ることを目指すボランティア連絡協議会の支援を行う。
	目標	ボランティア連絡協議会の自主性を育てる。
	実施内容	ボランティア連絡協議会の事務局として、連絡調整や事務処理を行う。
	利用料	—
事業実績	内容	<p>◆事務局として参加したボランティア連絡協議会の会議等</p> <p><input type="checkbox"/>ボランティア連絡協議会会議 ◎日時 6月14日(木) 19:00～ ◎場所 町福祉健康センター ◎参加者 9名</p> <p><input type="checkbox"/>三重ボランティア基金街頭募金 ◎日時 6月27日(水) 10:00～11:00 ◎場所 阿田和ピネ</p> <p><input type="checkbox"/>三重ボランティア基金募金箱設置 ◎日時 8月25日(土) 17:00～19:30 ◎場所 町福祉健康センター 「あいあいまつり」</p> <p><input type="checkbox"/>御浜町ボランティア連絡協議会役員会議 ◎日時 1月31日(木) 18:30～ ◎場所 町福祉健康センター ◎参加者 4名</p> <p><input type="checkbox"/>ボランティアのつどい(レクリエーション&昼食交流会) ◎日時 3月17日(日) 10:00～12:00頃 ◎場所 町福祉健康センター ◎参加者 15名</p>
	総評	町内にはどのようなボランティア活動があり、どのような思いで取り組んでいるのかなど情報を共有する場の必要性をボランティア自身が感じている。そのため会議やボランティアのつどいなどを通して集まる機会は、ボランティア同士の新たな出合いやつながりとなり活動へとつながっている。
	課題	「ボランティア連絡協議会」の存在がボランティア全体に伝わっていない部分もみられる。行事を行う際に、事務局が中心となることが多くなっている。
	その他(所感等)	
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		ボランティア連絡協議会としての活動を、御浜町ボランティアセンターに登録しているグループの活動であることを周知していく。各グループ活動においては活発に行われているため、今後もボランティア同士が意見交換ができるよう、事務局としても提案していきたい。
特記事項		
担当者		長田

事業名		御浜町共同募金委員会事務局(赤い羽根共同募金運動及び歳末助け合い募金運動)
財源元		<input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 自主財源(事務費の一部を共同募金会が支出)
事業概要	目的	町内の福祉活動を展開するための財源や災害時の財源の確保を目的に、御浜町共同募金委員会の事務局業務を行う。
	目標	町内の福祉活動を展開するために必要な金額から積算された、一般募金活動と歳末助け合い募金活動の目標額を達成する。
	実施内容	○一般募金運動(10月～12月) ○歳末助け合い運動として、民生委員・児童委員の協力により街頭募金を実施 ○災害義援金に対する募金箱を町内各所に設置 ○御浜町共同募金委員会会議の開催(2回) ○阿田和地区推進部会の開催(1回) ○三重県共同募金会への申請・報告等の事務 ○助成金事業の手続き 他
事業実績	内容	◆一般募金実績額 1,318,124円(達成率106.9%) ◆歳末助け合い実績額 24,712円(達成率74.9%) ◆歳末助け合い街頭募金の実施(12月19日 15時～17時) ◆共同募金委員会の開催 【第1回】9月26日 ○平成29年度 実績報告および決算について ○平成30年度 一般募金及び歳末助け合い募金について ○阿田和地区推進部会について 他 【第2回】3月26日 ○平成30年度 補正予算について ○平成31年度 使途計画及び予算について ○平成30年度 一般募金及び歳末助け合い募金の結果について 他 ◆阿田和地区推進部会の開催(10月29日) ◆災害義援金募金実績額 ○平成30年7月豪雨災害実績額 218,850円
	総評	一般募金活動は目標額を達成することができた。
	課題	歳末助け合い募金活動は目標額を下回った。一般募金活動、歳末助け合い募金活動共に前年度より減額となっているが、町内の福祉活動を行う上で十分な助成額となっている。
	その他(所感等)	募金に関する住民の意識が変わってくる中で、小中学校での募金活動では、募金に興味を持つ児童・生徒が増えたとのこと。将来的な寄附文化の醸成につながっていければと考える。
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
改善への取組み・方向性		共同募金は地域に還元される仕組みであることや、活用されている事業についての理解を得られるよう、より広報を行っていく。
特記事項		
担当者		芝

事業者名・事業名		御浜町ケアサポートセンター[介護保険法] (居宅介護支援事業・介護予防居宅介護支援事業)					
対応する拠点区分名		介護保険事業拠点区分		利用対象者		要支援及び要介護高齢者	
収入の状態		当初予算額	24,364,000	収入額	25,201,990	達成率	103.4%
事業の概要	目的	事業対象者や要支援者及び要介護者が心身の状況や置かれている環境等に応じて本人や家族の意向を基に、サービスを適切に利用できるよう、サービスの種類、内容等の計画を作成すると共にサービスの提供が確保されるよう指定居宅サービス事業者、介護保険施設等との連絡調整、その他の便宜を図る。					
	実施内容	要介護状態となった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営む事ができるよう配慮し、利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき、適切な保健医療サービス及び福祉サービスが多様な事業者から総合的かつ効率的に提供していく。					
事業実績	ケアプラン実数	事業対象	要支援	要介護	計		
		16	417	1,438	1,871		
	総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆月平均156名の方を支援し、前年度より6名増となったが、前々年度と比べると19名減になった。 ◆死亡19名、入所20名、変更3名で年間42名の方が利用中止となり、新規依頼は41名だった。 ◆相談件数は52件あったが利用に結び付いたケースは、事業対象者・要支援者・要介護者を合わせて41件だった。また、新規依頼を受けてもターミナル期等、病気で短期間で亡くなる方もおられ、長期の利用に繋がらないケースも数件あった。 ◆入院者数は前年より26名多かった。その中には介護度の重い人のレスパイト利用で同じ人が何回か入院したり、入院後そのまま施設に行く人も数名いた。 ◆事業対象者及び要支援者数は増加傾向だが、要介護者数は年々減少傾向となっている。 ◆地域包括支援センターや紀南病院主催の多職種が参加する事例検討会や研修会に参加することで、マネジメントの視野を広げる事ができた。 ◆前年度に引き続き、週1回の事業所内定例会を行い、他のケアマネジャーから別の視点でアドバイスを受ける事で視野を広げる事ができ、よりよい支援に結び付ける事ができた。 					
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域包括支援センターからの新規依頼は、殆ど要支援者で要介護者の依頼は年々減少している。 ◆特定事業所加算による記録など、事務業務に追われることが多い。 ◆介護の重度化、障がいのある高齢者や精神疾患的な症状、複雑な家族関係等の困難事例が増えてきている。 				
その他(所感等)							
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E					
改善への取組み・方向性		<ul style="list-style-type: none"> ◆研修会等に積極的に参加すると共に、定例会においてケースを共有することで、マネジメントの質を上げていく ◆家族や事業所との関わり方において、リスクマネジメントを意識して業務を行う ◆法令遵守に基づいて利用者本位の立場に立って支援していく ◆高齢者という枠を超えた「高齢、障害、児童」等の包括的な支援に取り組む ◆医療と介護の連携を図り、住み慣れた地域で必要な医療、介護サービスが一体的に受けられる様取り組む 					
特記事項							
管理者・主任	植村	副主任	高濱	係	榎本・福田	記入者	植村

事業者名・事業名		御浜町ヘルパーステーション[介護保険法] (訪問介護事業・介護予防訪問介護事業・訪問型サービスA事業)							
対応する拠点区分名		介護保険事業拠点区分		利用対象者		要支援及び要介護高齢者			
収入の状態		当初予算額		19,972,000	収入額		16,717,810	達成率	83.7%
事業の概要	目的	事業対象者や要支援者及び要介護者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援する。							
	実施内容	ホームヘルパーが事業対象者や要支援及び要介護状態の高齢者の居宅を訪問し、入浴、排泄、食事介助等の身体介護、生活全般(掃除、洗濯、買物、調理等)に亘る生活支援を行う。 その他、通院等のための乗車又は降車の介助を行う。							
事業実績	年間延べ利用者数	事業対象	要支援	要介護	乗降介助	計	年間キャンセル数	利用率	
		54	725	4,331	547	5,657	534	91.4%	
	総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆利用率は前年度と変わりはないが、年間延べ利用者数は1,061件と大幅に減少している。 ◆重度の方の施設入所が増え、毎日訪問型が急遽無くなり、新規依頼が少ないため、次への訪問へなかなかつなげられない。 ◆入所やロングショートが増加傾向となってきた。 ◆事業対象(サービスA)の利用者が増え、単価が低く収入増につながらない。 ◆月1回の定例会では、学ぶ機会を提供し、それぞれ意見や不安等を話す機会を持ったりテーマを決めて研修を行った。 ◆殆ど毎日仕事をしていたヘルパーが、扶養範囲内での仕事になったため、夕方訪問や、土日の訪問ができなくなり、他事業所と併せての訪問となっている。 							
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆ホームヘルパー数の不足により、デイサービス終了後の17時以降の支援や土日、毎日型訪問の依頼を受ける事が難しい状況にある。 ◆サービス提供責任者が在宅訪問する事により、本来の業務に支障がない様に留意したいが、ヘルパー受け入れ後、すぐに仕事ができるよう検討していく。 ◆自立支援の観点からも、介護者側の視点ではなく、利用者の生活に合わせた支援ができるサービスを提供できるよう心がける。 							
	その他(所感等)								
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E							
改善への取組み・方向性		<ul style="list-style-type: none"> ◆仕事への意識を統一し、自己流にならないよう常にヘルパーの質の向上を目指す。 ◆認知症を正しく理解して支援を行う。 ◆ヘルパーの人材確保を行う。 							
特記事項									
係長・主任	宇城	副主任	桐本	係			記入者	宇城	

事業者名・事業名		御浜町デイサービスセンター〔介護保険法〕 (通所介護事業・介護予防通所介護事業・通所型サービスA)					
対応する拠点区分名		介護保険事業拠点区分		利用対象者	要支援及び要介護高齢者		
収入の状態		当初予算額	62,612,000	収入額	63,728,941	達成率	101.8%
事業の概要	目的	事業対象者や要支援者及び要介護者が居宅において、可能な限り現在の日常生活を維持・向上していけるように、機能訓練や認知症予防等、個別のニーズに合わせてサービス提供することで、利用者の社会的孤立の解消や家族の介護負担の軽減を目的とする。					
	実施内容	利用者の身体機能の維持向上や楽しみ、生きがいにつながる様に、送迎、昼食、入浴、機能訓練、レクリエーション等のサービスを提供する。また、本人や家族の介護に関する相談や助言を行うことで、在宅生活の延長であるデイサービスを身近に感じて頂く。					
事業実績	年間延べ利用者数	事業対象	要支援	要介護	計	年間キャンセル数	利用率
		16	510	5,943	6,469	1,291	83.4%
	総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆4月～9月は、1か月の利用者数が平均460件で推移していたが、10月以降は平均530件に増加した。理由としては、新規利用者の獲得や利用日の追加が挙げられる。 ◆曜日によって利用者数に偏りがある。新規利用、利用日追加があったが、利用者の少ない火曜日の増加にはつながらなかった。 ◆日常生活を営むのに必要な機能を、維持・向上するために、利用者の心身状況に合わせた個別機能訓練を提供することができた。 					
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆認知症により理解力が低下している利用者の予想できない行動により、転倒のリスクが高くなっている。 ◆職員・パート職員の仕事に対する意識にばらつきがあるため、統一したサービスが提供できるよう心がけたい。 					
	その他(所感等)						
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E					
改善への取組み・方向性		<ul style="list-style-type: none"> ◆職員・パート職員を対象とした介護技術研修を行っていく。 ◆介護事故等が起こってしまった場合は、即、上位者へ報告を行うと共に適切な対処を行う。 ◆環境整備など改善できることは実行していく。 ◆スタッフ間で利用者の情報を共有するため、ミーティング等は継続して行っていく。 					
特記事項							
主任	西口	副主任	川本	係	仲・保坂	記入者	西口

事業者名・事業名		御浜町訪問入浴サービス[介護保険法] (訪問入浴事業・介護予防訪問入浴事業)					
対応する拠点区分名		介護保険事業拠点区分		利用対象者	要支援及び要介護高齢者		
収入の状態		当初予算額	3,858,000	収入額	3,061,670	達成率	79.4%
事業の概要	目的	訪問入浴介護事業は、要介護者等がその心身の状況や置かれている環境に応じて、本人や家族の意向をもとに適正な訪問入浴介護を提供することを目的とする。					
	実施内容	自宅まで訪問入浴車で訪問し、居室で入浴していただくサービス。 2分割式の浴槽を組み立て、利用者ご本人の身体状況に応じ入浴ボードまたは入浴担架を使用し入浴を行う。利用時の状態により清拭での対応も行う。できるだけベッドの近くで入浴していただき、ベッドと浴槽間の移動は必ず介護職員が介助して行う。					
事業実績	年間延べ利用者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	/
		0	0	1	4	45	
	要介護4	要介護5	計	年間キャンセル数	利用率		
	13	176	239	71	77.1%		
	総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度も前年度に引き続き、要支援者の利用はなし。 ◆年間を通じ利用者数の変動が激しい。1日の利用人数が2～4名の間で変動しており、理由として死亡、入院、ショートステイによるものであった。 ◆新規依頼は5名あったが、4名の方が死亡、2名の方が他のサービス利用の為、6名の方が利用中止となった。 ◆病状がターミナル期の方の利用が目立ち、数回の利用で終了するケースが数件あり、長期の利用には繋がらなかった。 ◆サービス提供地域外からの依頼が3名あった。 ◆常に安全に気を配り、事故防止に努めた。 					
	課題	◆高齢で重度の要介護者がほとんどな為、入院や体調不良等によるキャンセルや、病状が末期の為、長期の利用とはならず、利用者増につながらない。					
	その他(所感等)						
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E					
改善への取組み・方向性		<ul style="list-style-type: none"> ◆訪問入浴事業は、経営的に厳しい面もあるが、町内で社協だけが提供しており、一定のニーズがある状況においては、どのように継続していくか検討する。 ◆他事業所のケアマネジャーにも周知を行い新規利用者の獲得に努めていく。 ◆他職種の事業者と連携を図り、統一されたサービスの提供に努める。 ◆安全・安楽を心がけ、喜ばれるサービスの提供に努める。 					
特記事項							
主任	川本	副主任	/	係	徳田・湊・武和	記入者	川本

事業者名・事業名		御浜町指定障害者相談支援事業所[障害者総合支援法] (特定相談支援事業・障害児相談支援事業)					
対応する拠点区分名		障がい福祉サービス事業 拠点区分		利用対象者	身体・精神・知的障がい者(児)		
収入の状態		当初予算額	461,000	収入額	249,420	達成率	54.1%
事業概要	目的	障がい者(児)がその有する能力及び適正に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように支援することを目的として、障がい福祉サービス等を提供する。					
	実施内容	障がい者(児)がその有する能力及び適正に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営む事ができるよう配慮し、その方の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、本人又は障がい児の保護者の選択に基づき、適切な障がい福祉サービス等が、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるよう支援する。					
事業実績	計画相談支援実数	障がい児	区分1	区分2	区分3	区分4・5	計
		1	0	0	4	0	5
	総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆計画後サービス提供に結びつき、状況に応じたモニタリングを行っているが、定期的な訪問のみでは関係性を作ることが不十分であり、継続した関わりを行っていくことが引き続き、必要と考える。 ◆今年度中に障害児相談支援、新規1件。また相談支援センターあしすとより、新規の依頼相談があったがサービス提供地域外の為、断ったケースあり。 ◆これまで総合支援法を利用されていた方が介護保険への移行となった。 					
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆計画相談支援の受け入れ体制を整えていくことが必要。 ◆個々の障がい者にあつたサービスや利用者の障害特性や年齢等から、今後の生活を見据えたサービスや、社会資源へつなげていくことが必要。 ◆対象者以外に家族の思いや悩みなど聞き取ることが多く、本人の支援のみではなく、家族への関わりについても、相談支援専門員として、必要に応じて行政等関係機関への橋渡しの役目になっていくことが必要と感じる。 					
	その他(所感等)						
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E					
改善への取組み・方向性		<ul style="list-style-type: none"> ◆御浜町の障がい福祉サービスの充実と向上が図れるよう、行政やサービス事業者と連携し取り組んでいく。 ◆相談の多様化が考えられる為、柔軟な対応を行う。 					
特記事項							
管理者	林	主任		係	高濱	記入者	高濱

事業者名・事業名		御浜町ヘルパーステーション [障害者総合支援法] (居宅介護事業・重度訪問介護事業(自立支援給付)、移動支援事業(地域生活支援給付))						
対応する拠点区分名		障がい福祉サービス事業 拠点区分		利用対象者	身体・精神・知的障がい者・児童			
収入の状態		当初予算額	553,000	収入額	131,520	達成率	23.8%	
事業の概要	目的	障害者総合支援法の趣旨に基づき、利用者の意思と人格を尊重すると共に、常に利用者の立場にたち、居宅において日常生活が営めるよう必要なサービスを提供し生活の質の向上等を図ることを目的とする。						
	実施内容	移動の介助、生活全般（掃除、洗濯、買物、調理等）に亘る援助を行い、生活等に関する相談及び助言を行う。						
事業実績	年間延べ利用者数 利用回数	種別	実利用者数	延べ利用回数	/			
		自立支援給付	2	50				
		地域生活支援給付	1	0				
	総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆自立支援給付対象者が2名利用された。1名の方は、H30年5月より65歳になり介護保険サービスへ移行されたため1か月の利用で終了となった。 ◆地域生活支援給付対象者1名の方は、今年度も利用が無かった。 						
課題	◆現在利用されている方は就労を行いながら、サービスを利用しているため、精神面で不安になったり億劫になると、キャンセルが多くなり一緒に行う支援ができなくなる。							
その他 (所感等)								
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E						
改善への取組み・方向性		◆各関係機関と協力し、安心した在宅生活を送るためにコミュニケーションを取り、意思を尊重しながら支援していく。						
特記事項								
係長・主任	宇城	副主任	桐本	係	/		記入者	宇城

事業者名・事業名		知的障がい者日中一時支援事業（にこにこデイサービス）事業 [障害者総合支援事業]（地域生活支援事業）					
対応する拠点区分名		障がい福祉サービス事業 拠点区分		利用対象者		在宅の知的障がい者等	
収入の状態		当初予算額		収入額		達成率	
		1,572,000		1,717,540		109.3%	
事業の概要	目的	在宅知的障がい者を対象に、町福祉健康センターにて、参加者一人一人の個性を尊重し、自立生活と社会参加の支援を目的に開催。					
	実施内容	毎週水曜日に開催。午前朝の会や園芸活動（野菜や花の栽培、収穫等）、創作活動、お口の体操等を行い、午後からはテレビ体操やレクリエーション、おやつ、棒体操等のサービスを提供する。 園芸活動では花や野菜を育て、きれいな花を見て感動していただいたり、収穫や食の楽しさ等を体感していただけるように支援する。また、自分の役割や参加意識を持っていただくため、職員と二人組で当番制（昼食準備やお口の体操、棒体操の世話等）を設けている。更にボランティアの協力も得ながら、自分たちで栽培した野菜等を使った昼食やおやつ作りを行う。					
事業実績	年間延べ利用者数	304名					
	総評	<ul style="list-style-type: none"> ◆今年度も野菜を中心に栽培し、収穫した野菜で昼食やおやつを作り、色々な食べ方を楽しんでいただいたと感じる。 ◆おやつ作りについては、収穫した野菜を使った回数を増やし、簡単に色々な野菜が美味しく食べられる調理方法を覚えていただくことで、持ち帰った野菜を自宅での食事に取り入れていただけるよう工夫を行った。 ◆行事やゲームなど楽しいレクリエーション等を取り入れた。（運動会・クリスマス会・お正月遊び・節分） ◆創作活動では季節ごとの作品を全員で仕上げることで達成感を味わうことができたと感じる。 ◆手作りの作品を自分たちで作成し、あいあい祭りのバザーを盛り上げた。（雑巾刺繍・鍋敷き・ナイロンたわし・ビーズブレスレット） 					
	課題	◆固定したメンバーであり、和気あいあいと行う事ができているが、介護保険との併用の方も出てくるなど、今後、高齢化に伴うサービス内容や選択が必要となる。					
	その他（所感等）						
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E					
改善への取組み・方向性		御浜町の障がいサービスの充実と向上が図れるよう、行政やサービス事業所と連携し取り組んでいく。					
特記事項							
主任		副主任		係	坂・徳田	記入者	坂

事業者名・事業名		福祉有償運送サービス事業（道路運送法第79条第3号）								
対応する拠点区分名		介護保険事業拠点区分	利用対象者	要介護及び心身障がい等の理由により単独で公共交通機関が利用できない方						
収入の状態		当初予算額	241,000	収入額	152,450	達成率	63.3%			
事業の概要	目的	要介護者や障がいのある方など、公共交通機関を使用して移動することが困難な方を対象に、通院、公的機関への用務等を目的に行う有償の送迎サービス。								
	実施内容	◆車両・・・福祉車両（軽4台）・一般車両（軽2台） ◆運転者・・・6名登録 ◆運賃・・・ <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>《介護保険連動型》片道2kmまで200円、</td> <td>その後2km増す毎に50円加算</td> </tr> <tr> <td>《介護保険外対応型》片道2kmまで300円、</td> <td>その後1km増す毎に100円加算</td> </tr> </table> ◆目的・・・通院、公的機関への用務など						《介護保険連動型》片道2kmまで200円、	その後2km増す毎に50円加算	《介護保険外対応型》片道2kmまで300円、
《介護保険連動型》片道2kmまで200円、	その後2km増す毎に50円加算									
《介護保険外対応型》片道2kmまで300円、	その後1km増す毎に100円加算									
事業実績	登録会員数	要支援者等	要介護者	身体障がい者	精神障がい者	知的障がい者	計			
		5	53	24	2	6	93			
	年間延べ利用数	利用者数（延べ）	193	利用回数（年間）	550	走行距離数（年間）	2,148.2			
	総評	◆事故なく安全に運行する事ができた。 ◆日により受診日が重なり、時間をずらす等の対応を行った。								
課題	◆運転者として6名が登録しているが、通常は訪問業務や、不定期で仕事を行っている為、送迎サービス業務を常に行うことはできない。 ◆利用者を徐々に増やしていく予定だったが、今後はサービス提供者1名減になるため、利用者増は難しい。									
その他（所感等）										
総合評価		<input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E								
改善への取組み・方向性		◆運転者の確保に努める。 ◆利用者様の状態に合わせ、安心安全に利用していただく。 ◆安全運転を心がけ、事故を起こさないよう運転手に対し注意喚起する。								
特記事項										
係長・主任	宇城	副主任	桐本	係		記入者	宇城			